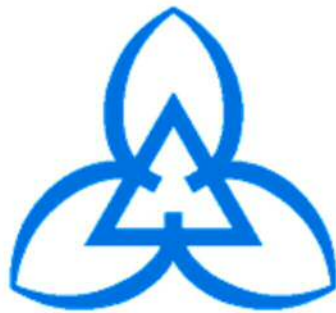


令和元年度

大山崎町教育委員会事業報告書

（平成30年度対象）



令和元年8月

大山崎町教育委員会

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、平成 30 年度事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、作成したものです。

大山崎町教育委員会は、この点検・評価を踏まえ、今日的な教育課題や要請に対応した教育行政の推進に努力していきます。

大山崎町教育委員会

教育委員会名簿

職名	氏名
教 育 長	中 條 郁
教育長職務代理	南 顕 融
委 員	並川 康子
委 員	榎 本 和 彦
委 員	岡 弘 子

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 教育委員会の活動状況

1. 会議の開催状況

No.	会議名	開催日	議事（審議）案件
1	4月定例会	平成30年 4月25日	諸報告について
2	5月臨時会	平成30年 5月23日	諸報告について (第32号議案)教育財産の用途の廃止について
3	5月定例会	平成30年 5月24日	諸報告について (第33号議案)大山崎町議会の議決を経るべき議案(大山崎町立小学校プール設置条例の配置について)について
4	6月定例会	平成30年 6月28日	諸報告について (第34号議案)大山崎町社会教育委員の辞職について (第35号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について
5	7月定例会	平成30年 7月26日	諸報告について
6	8月定例会	平成30年 8月29日	諸報告について (第36号議案)大山崎町いじめ防止基本方針の改定について (第37号議案)平成31年度に小学校において使用する教科用図書の採択について (第38号議案)平成31年度から中学校において使用する教科用図書の採択について
7	9月定例会	平成30年 9月26日	諸報告について (第39号議案)大山崎町立中央公民館管理及び運営規則の一部改正について (第40号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第41号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について
8	10月定例会	平成30年10月26日	諸報告について
9	11月臨時会	平成30年11月26日	諸報告について (第42号議案)大山崎町教育委員会事務局職員の任免について
10	11月定例会	平成30年11月30日	諸報告について (第43号議案)教育長の辞職について (第44号議案)大山崎町教育委員会事務局職員の任免について
11	12月定例会	平成30年12月21日	諸報告について

12	1月定例会	平成31年1月30日	諸報告について (第1号議案)議会の議決を経るべき議案(大山崎町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について)について
13	2月定例会	平成31年2月28日	諸報告について (第2号議案)大山崎町就学援助規則の一部改正について (第3号議案)平成31年度小学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について
14	2月臨時会	平成31年2月28日	(第4号議案)教職員管理職の人事異動について
15	3月定例会	平成31年3月20日	諸報告について (第5号議案)平成31年度学校・社会教育の指導の重点を定めることについて (第6号議案)大山崎町指定文化財の指定について (第7号議案)大山崎町指定文化財の指定について (第8号議案)大山崎町指定文化財の指定について (第9号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第10号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第11号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第12号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第13号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第14号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第15号議案)大山崎町社会教育委員の委嘱について (第16号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について (第17号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について (第18号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について (第19号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について

			(第20号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について (第21号議案)大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について (第22号議案)大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について (第23号議案)大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について (第24号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について (第25号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について (第26号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について
16	3月臨時会	平成30年3月20日	(第27号議案)大山崎町教育委員会事務局職員の任免について

2. その他の会議や活動など

(1) 総合教育会議（町長が招集し、会議の構成員として教育長及び教育委員が出席）

	会 議 名	開 催 日	協議・調整事項
1	第1回	平成30年12月21日	・中学校給食導入方針について ・その他
2	第2回	平成31年 1月30日	・中学校給食導入方針について ・その他

(2) 教育委員の主な活動

教育委員会関係行事への参加（教育長のみが出席したものを除く）

- ・大山崎町立小中学校入学式・卒業証書授与式
- ・大山崎町立小中学校運動会・体育大会
- ・大山崎町立小中学校授業参観（研究発表会等）
- ・学校計画訪問（授業参観、懇談等）
- ・大山崎町民体育祭
- ・大山崎町自治記念式
- ・大山崎町文化のつどい
- ・乙訓地方小学生駅伝大会
- ・大山崎町成人式
- ・大山崎中学校吹奏楽部定期演奏会 ほか

(3) 委員研修

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| ① 乙訓教育委員会連合会研修会 | 平成30年 5月 7日 (月) |
| ② 京都府市町村教育委員会連合会委員研修会 | 5月28日 (月) |
| ③ 京都府内市町教育委員会研修会 (京都市) | 11月 2日 (金) |
| ④ 乙訓教育委員会連合会研修会 (滋賀県守山市) | 平成31年 1月31日 (木) |

2 教育行政事務に係る点検・評価

(1) 点検・評価の対象及び方法

平成30年度「指導の重点」に位置付けられ、教育委員会が所管又は教育委員会が関わる項目について、外部評価対象事業とし、委員の方から事業評価を頂くとともに様々な意見・助言等をいただきました。

(2) 評価委員

氏 名	役 職 等
浅 野 輝 男	人権擁護委員
田 中 久美子	京都府教育委員会教師力向上アドバイザー - 元校長

3 事業評価シート

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標1】質の高い学力の育成 「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。		
事務事業名	学力向上推進事業Ⅰ	担当部署	学校教育課
事業実績	学習意欲の喚起と基礎的・基本的な学力の定着及び向上に向け、児童生徒の実情に合わせた事業として、次のような取組を行った。 ① 子どものための京都式少人数教育の実施 ＜大山崎小学校＞ 第4・6学年で少人数学級を実施 第3・5学年で少人数授業を実施 ＜第二大山崎小学校＞ 第3・4・5学年で少人数授業を実施 ＜大山崎中学校＞ 第1学年の数学科・英語科、第2学年の英語科でチームティーチングを実施 英語科において小中連携加配を配置し、小学校第6学年でチームティーチングを実施 ② 学力向上に向けた学校独自の取組 ＜大山崎小学校＞ ・山っ子検定の実施：国語(漢字)・算数(計算)における学年での達成目標を定め、学期毎に相当の検定試験問題に挑戦させた。結果によっては補習を行い、全員合格を目標に取り組んだ。 ・補習がんばり日：全学年、週1日を設定した。 ・マスターウィークチェック：家庭学習や生活習慣についてのチェック週間を設けて取り組んだ。 ・「小学生個別補充学習『ジュニアわくわくスタディ』」事業として、第4・5学年、計36名の児童を対象に国語・算数の補習を実施した。 【実施日】7月23日(月)～25日(水)の3日間 ＜第二大山崎小学校＞ ・朝学習では、漢字や計算の繰り返し反復学習により、基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。 ・学期毎のまとめテスト：指導内容の定着度を検証し、指導方法の改善に取り組んだ。 ・「小学生個別補充学習『ジュニアわくわくスタディ』」事業として、第4・5学年、計20名の児童を対象に国語・算数の補習を実施した。 【実施日】6月1日(金)～7月24日(火)の15日間 ＜大山崎中学校＞ ・京都府乙訓教育局「OASIS 校」の指定を受け、研究主題を「対話と繋がりをもとにした、生徒の主体的な学びを育む授業づくり ～学びを深め合う学級集団づくりの実践をもとに～」と設定し、研究に取り組んだ。校内		

	での研修を通して、「コミュニケーション能力の向上」、「主体的な学び」を意識した授業改善に取り組み、11月21日（水）に公開授業を実施した。 ・「中2学力アップ集中講座」事業として、第2学年13名の生徒を対象に、数学、英語の学力アップを目指した学習を実施した。 【実施日】7月24日（火）～8月24日（金）の8日間 ・「中1振り返り集中学習『ふりスタ』」事業として、第1学年12名の生徒を対象に、数学・英語の補習学習を実施した。 【実施日】6月25日（月）～8月24日（金）の10日間 ② 英語教育推進事業 ・英検 Jr.の実施：小学校5・6年生を対象とし、町中央公民館を会場として2回実施した。検定料は町からの全額補助があり、1人1回分を無料として実施。参加児童は延べ65名。 【実施日】9月8日（土）、2月2日（土） ・英語検定の実施：一次試験について、中学校を準会場として英語検定を年3回実施した。検定費用として一人1回、町からの補助（2級 3,000円、準2級 2,000円、3級 1,500円、4・5級 1,000円）。参加生徒は延べ245名。 【実施日】6月1日（金）、10月5日（金）、1月25日（金） ・英語学習発表会：大山崎小学校5・6年生全員、大山崎中学校の希望者を対象に英語学習の成果についての発表会を実施した。発表児童生徒は226名。当日参観者は約200名。 【実施日】10月4日（木） ・小学校英語専科指導加配の配置：大山崎小学校3～6年、第二大山崎小学校5・6年において、外国語活動の授業を担当。
成 果	・少人数学級及び少人数授業により、個に応じた適切できめ細かい学習指導や生徒指導が可能になり、落ち着いた学習に取り組む姿勢が作られ、児童生徒の学習への関心を高めることができた。 ・英語科の小中連携加配の効用として、小学校の外国語活動の充実と中学校での学習規律をはじめとする学校生活への円滑な接続となっている。 ・小学校において英語専科指導加配が配置されたことで、質の高い英語教育が安定して実施することができた。 ・小学校での山っ子検定や学期ごとのまとめテストでは、各児童の学習の定着度合いが把握でき、指導に役立つとともに児童の学習への意欲向上につながった。 ・各校の重点研究の取組を通して、授業改善、指導力向上を図ることができた。 ・中2学力アップ講座は、数学、英語の補充学習を実施し、個々の生徒の学力アップにつながった。 ・中1振り返り集中講座「ふりスタ」や、小学生個別補充学習「ジュニアわくわくスタディ」事業では、基礎的・基本的な内容を中心に学習内容を厳選し、徹底した個別指導を行っており、その学習内容の定着と学習に対する意欲や興味・関心を高めることができたのではないかと考えられる。

	平成 28 度から小学生も対象として取り組んだ英語検定の実施は、多くの児童生徒の学習意欲の向上につながっている。特に、英検の検定費補助は、受験人数増加への効果が大きかった。
課 題 認 識	- より効果的に少人数教育を進めるため、小中学校の連携を図りながら、各種の学力診断テストなどを活用し、学力の向上の視点で分析及び検証しながらその在り方を研究する必要がある。 - 新学習指導要領の周知、指導計画の見直し等の研修が必要である。今後の国の動きに注視する必要がある。 - 平成 30 年度より移行措置、32 年度より本格実施される小学校 5・6 年生の外国語科、3・4 年生の外国語活動が円滑に進められるための指導体制の充実及び研修が必要である。 - 学力課題の大きい学年もあり、小中連携を生かし、課題把握及び学習指導・生徒指導の両面で計画的・組織的な指導が必要である。
評 価 委 員 の 所 見	「学力向上」を課題と捉え、向上への各取組が行われていることは評価できる。各校とも児童生徒の実態に合わせて、学習意欲喚起・学力定着向上のために様々に取り組まれて効果を挙げている。引き続き、児童生徒に、「主体的・対話的で深い学び」が実現し、今後の社会に求められる力が付けられるような授業改善の努力をしてほしい。 - 学力向上において、学力テスト等は一定の目安にはなる。「平均」だけにとらわれず、個々の児童生徒の状況を捉えることが大切になるが、その意味で少人数学級、少人数授業、ティーム・ティーチング、振り返り集中学習等、個に応じた指導は、個々の児童生徒の学力状況に応じた指導ができ、学力向上に大変有効であり、今後も継続して取り組まれない。 - 英語検定補助及び小学校英語専科指導加配の配置は素晴らしい。グローバル化の時代、国を挙げて国際理解や英語への関心・意欲・技能の向上が言われている。小学5・6年生の外国語の教科化を見据えて、小学生にも拡充されたのは望ましいことである。ただ、英語が学外でそれを習う児童生徒だけのものにならないよう、より一層全ての児童生徒の言葉への関心・英語力向上をお願いしたい。 - 小学校の英語専科指導加配には外国語活動・外国語科の指導充実を期待するが、担任による外国語活動・外国語科の指導の在り方も研修されたい。 - 人前で自分の思いを発言・発表することが苦手な児童生徒にとって英語学習発表会は、とても良い機会になっているものと思われる。英語力向上に有効な機会となっていることもあり、今後も継続して実施してほしい。 - 英語学習発表会も英語力向上に有効な機会となっていると思われるが練習等に注がれる表に出ない指導時間もあることは気に止めておきたい。 - 新学習指導要領は小中学校、全ての教職員で研修し、令和元年度移行期に教育課程上も遺漏の無いよう取り組まれることを望む。 - 今後も新学習指導要領がらみの道徳・外国語・プログラミング等新しい課題への教職員の対応・環境整備等にご努力いただきたい。

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 1】 質の高い学力の育成 「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。		
事務事業名	学力向上推進事業Ⅱ	担当部署	学校教育課
事業実績	① 標準授業時数の確保 町内小・中学校の全学年で、標準授業時数を上回るとともに、教育課程外の行事も計画どおり実施できた。 ② 学力向上に向けた教科補習の取組 教育課程外の取組として、小学校では、毎週 2～3 日間の放課後補習、夏季休業中の補習、毎日の朝学習を実施した。 中学校では、毎日の朝学習、定期テスト前の補習、夏季休業中の補習、中 1 振り返り集中講座、中 2 学力アップ事業、進路補習の補習学習を実施した。		
成果	・標準授業時数の確保は、小・中学校とも確保できた。 ・長期休業中を活用した補習学習、土曜日活用、行事の精選など、教育課程外時間での学力向上に向けた取組ができている。		
課題認識	・授業時数の確保は、学力の保障や向上、進路保障において必要要件である。そのため、授業時数の確保を最優先し、他の行事を効果的に設定する必要がある。 ・学校が心豊かな児童生徒の育成を目指した事業を、土曜日活用を含めてどう編成するかが課題である。		
評価委員の 所見	・標準授業時数を確保することは重要である。特に学習指導要領移行期にあっては注意が必要である。 ・教育課題は年々膨らむ様相がある。引き続き、ねらいや付けたい力を明確にし重要度を勘案しながら思い切った精選や整理・工夫しての取組に期待したい。 ・児童生徒に「付けたい力」と特に土曜活用等、教職員の「働き方改革」との兼ね合いを考慮できることが望ましい。 ・教育課程外の学習会は教職員に物理的時間や時間には表れない負担が予想される。児童生徒への学習効果が検証されているのであれば、学習会が継続できる具体的な支援策を望む。 ・地域や家庭の教育力の活用、放課後・土曜日の活用等による心豊かな児童生徒の育成に努められたい。その際、新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」の観点で地域社会と共に児童生徒を育めるよう働きかける必要がある。そのため、地域学校協働活動（コミュニティ・スクール）の検討を望む。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標4】 健やかな身体の育成と体力の向上 生き生きと逞しく生きるため、体育・スポーツ活動に親しむ習慣や望ましい食習慣をはじめ、健康的な生活を実践する態度を養う。		
事務事業名	特色ある学校づくりⅠ	担当部署	学校教育課
事業実績	◇小学校陸上交歓記録会（第6学年対象） 9月27日（木） 大山崎小学校運動場・体育館 【全員種目】50m 走 【エントリー種目A】走り幅跳び、走り高跳び、ソフトボール投げ 【エントリー種目B】100m走、50mハードル 【選択種目】学級別リレー		
成果	・児童は、各競技を通して、自分の体力・運動能力を把握できるとともに、合同開催により意欲を持って取り組むことができた。各競技で全力を出し切り、両校児童の交流を深めることができた。		
課題認識	・本記録会は、体力や運動能力の向上を図る契機であり、児童にとっては自己の全力を出しきる楽しさや喜びを味わう大切な機会である。 ・本記録会が、両校の児童の体力づくりや運動能力の向上に結び付く取組になることが更に期待される。		
評価委員の見所	・両小学校の児童が「陸上競技」を通じて交流を深める良い機会となっている。 ・選択種目の学級別リレーは児童に、より参加意識が生まれたのではないかと。 ・中学校での開催は児童にとって貴重な体験であり、スケジュールを合わせて是非実施され、オリンピック前年でもある次年度、中学校の陸上部のリレーも見せる機会等にしてはどうか。		

平成30年度指導の重点における目標	【重点目標1】質の高い学力の育成 「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。 【重点目標3】規範意識の醸成や他者を思いやる心など豊かな人間性の育成 学校や社会のきまり・ルールを守り、社会の一員としての自覚を深めるとともに、よりよく生きようとする力の源泉となる豊かな人間性をはぐくむ。		
事務事業名	特色ある学校づくりⅡ	担当部署	学校教育課
事業実績	① 「ＫＹＯ発見 仕事・文化体験活動」推進事業 <大山崎小学校 4年生> 実施日 : 5月~2月 実施内容: 大山崎町の伝統的な作物であるエゴマの栽培と収穫 <第二大山崎小学校 4年生> 実施日 : 6月~12月 実施内容: 福祉についての学習や福祉施設での体験活動 実施日 : 2月18日(月) 実施内容 生け花体験 <大山崎中学校 2年生>※キャリア教育として「職場体験活動」を実施 実施日 : 11月1日(木)、2日(金) 実施内容: 保育所、幼稚園、消防署、公共施設、福祉施設、美術館等の事業所17カ所にて、仕事についての学習や体験活動 ② フェンシング体験 実施日: 6月6日(水) 午前: 大山崎小学校、午後: 第二大山崎小学校 対象児童: 第3学年 実施内容・基本的なルールや用具の名前や使い方 ・マスクやユニフォームを着用しての試合形式のゲーム ・元オリンピック選手による模範試合の披露 ※指導は京都フェンシング協会及び乙訓高等学校の池端花奈恵教諭に依頼した。 ③ もうすぐ1年生体験入学推進事業 <大山崎小学校> 5月12日(土) 「学校ってどんなところ？」 教室の見学や授業参観等 2月28日(木)、3月6日(水) 体験入学「小学校を体験しよう」 授業参観、学習体験、交流あそびなど <第二大山崎小学校> 10月20日(土) 「小学校の運動会! よーいどん!」 30m走の参加 ※雨天のため中止 11月27日(火)、12月5日(水) 「1年生との交流会」		

	生活科の学習体験、1年生との交流など 3月7日（木） 「1年生との交流会」 学校案内と交流遊び
成 果	① 「ＫＹＯ発見 仕事・文化体験活動」は、キャリア教育の一環として取り組み、勤労体験をすることで、その楽しさや厳しさを知り、地域社会との交流や地域の産業への関わりを深めるとともに、歴史的に本町と関わりの深いえごまの栽培・搾油等を通じて歴史・文化的学習の機会を提供することができた。 中学校では、体験を通して望ましい職業観や勤労観を身に付けさせるとともに、地域社会に貢献する意欲も高められた。 ② フェンシング体験事業は毎年小学校第3学年において実施しており、児童にとってフェンシング競技への関心を高める貴重な機会となっている。こうした取組もあり、大山崎中学校のフェンシング部では、専門的な指導力のある顧問・外部指導者を活用した指導の下、活発な活動と優秀な成績を残している。 ③ もうすぐ1年生体験入学推進事業では、入学前子ども達が、小学校の教室で授業体験をするなど、小学校の学習活動に参加し、小学校入学への不安の解消を図るとともに、学習に対する興味を持ち、新たに始まる学校生活への期待を高めることができた。また、1年生にとっても今までに学んだことを表現する機会となり、自己肯定感や自己存在感を高める取組となった。
課 題 認 識	① 「ＫＹＯ発見 仕事・文化体験活動」を通して、得たものや学んだことを生かし、社会の一員としての規範意識の育成が図られることを期待している。 ② 児童はフェンシング体験授業において、フェンシング競技への楽しさや面白さを体験することができ、今後、フェンシング競技への参加児童生徒の拡大が期待される。 ③ もうすぐ1年生体験入学を通して、入学後の生活習慣や学習習慣の変化への対応など、保育所・幼稚園などと小学校との円滑な接続について、今後も継続し、更なる充実が期待される。
評 価 委 員 の 所 見	・大山崎町の伝統的な作物であるエゴマの栽培と収穫は、大山崎小学校だけではなく、第二大山崎小学校においても実施されることを望む。 ・各校ともキャリア教育としても地域学習としても意味ある取組である。ただ、発達段階が違うとはいえ、小学校と中学校の取組に重複がないよう工夫されたい。 ・両校第3学年で実施されているフェンシング体験事業は、他市町では見られない事業であるが、近年メジャーになりつつある同競技を体験学習することは、オリンピック・パラリンピックへの関心にも繋がる良い機会であり、今後も継続されることを期待する。 ・「もうすぐ1年生体験入学」は、入学前児童にとって小学校の様子を知ることのできる機会であり、指導者同士の交流も含め保幼小連携も期待される。その際、幼児教育として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」「学習指導要領」等の相互学習も有効ではないか。 ・入学前の幼児と共に家庭教育として、その保護者への啓発・ケア等にも配慮できる取組が望ましい。

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標5】信頼を高める学校づくりの推進 家庭や地域社会と連携・協働して、信頼に応える学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。		
事務事業名	特色ある学校づくりⅢ	担当部署	学校教育課
事業実績	◇土曜日を活用した授業・行事等の実施 ① 土曜活用・・・学期に1回実施（小学校）、午前中授業で振替休日はなし ・大山崎小学校 5月12日—授業参観、学校説明会、PTA 総会 9月15日—授業参観（人権学習） 1月19日—授業参観、PTA 文化事業 ・第二大山崎小学校 5月12日—授業参観、学校説明会、PTA 総会 12月15日—ありがとう会 1月19日—マラソン大会 ② 土曜授業・・・振替休日あり ・大山崎小学校・第二大山崎小学校 10月20日—運動会 12月1日—授業参観・乙訓小学生駅伝 ・大山崎中学校 6月2日—授業参観、進路説明会、部活動懇談・参観 ③ 教育課程外としての土曜日を活用 <小学校> 学年親子交流会（両小学校とも全学年） 英検 Jr 学校版（両小学校・年2回） <中学校> 部活動、学校クリーンデー		
成果	・土曜日に学校公開の取組を行うことで、保護者からも好評で参加数が多くあった。		
課題認識	・スポーツ団体や高等学校の説明会など、各種団体の催しと重なり、児童生徒の出席を確保するための日程調整が難しい。 ・教職員の勤務環境を整える必要がある。		
評価委員の 所見	・各種団体との日程調整にはご苦労されているところであるが、いろいろな行事を実施していくなら調整は必須と思われるが、本来的に必要かどうかも含め検討がいるのではないかと。 ・土曜参観は、保護者が児童生徒の学校生活の様子を知る上で有効であり、是非とも継続されたい。ただ、児童生徒・教職員の負担が大きいことも考慮し、振替休日の実施等、教職員のへの負担を極力少なくされることを期待する。 ・児童生徒・保護者・教職員等の負担が少ない取り組み方を模索しながら、児童生徒への成果を期待したい。		

平成30年度指導の重点における目標	【重点目標1】質の高い学力の育成 「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。 【重点目標10】家庭の教育力の向上 家庭教育の自主性を尊重し、教育の出発点である家庭の教育力を高めるための支援を推進する。		
事務事業名	特色ある学校づくりⅣ	担当部署	学校教育課
事業実績	① リーフレット「大山崎っ子できます10」の活用 小・中学校で身に付けてほしい10項目の取組を定め、達成するために小学校低学年、中学年、高学年、中学生の4段階に分け、学年ごとに目当てを示した「大山崎っ子 できます10」を作成し、全児童生徒への配布と各教室での掲示や学校だよりでの紹介を行い、毎日の生活で意識することや保護者への啓発と協力を願った。 学校評価における児童生徒や保護者へのアンケート調査の項目に盛り込み、目標項目に対して達成状況を把握した。 ② 作品応募の成績や活動の実績（抜粋 掲載以外にもあり） 小・中学校とも、各種団体の作品応募に積極的に取り組み、児童生徒のもつ能力の育成と発揮する機会を持たせ、多くの優秀なる評価を得た。また、スポーツ活動にも実績を残した。(以下はその一例) <大山崎小学校> 「平和ポスターコンテスト」優秀賞3名 「全国教育美術展」入選5名 「本のしおりコンテスト」佳作1名 「読書感想文コンクール」佳作1名 <第二大山崎小学校> 「緑化ポスターコンテスト」佳作2名 「愛鳥週間ポスターコンクール」佳作1名、努力賞1名 「全国教育美術展」入選4名、佳作8名 「税に関する習字コンクール」金賞1名、銀賞3名、銅賞6名 「京都新聞書き初め展」佳作3名 <大山崎中学校>（主なもの） 「中学校総合体育大会」（夏季大会の結果） サッカー部 乙訓大会優勝 女子バレーボール部 乙訓大会優勝 男子ソフトテニス部 乙訓大会団体優勝、山城大会団体3位 女子ソフトテニス部 乙訓大会団体優勝 （乙訓大会の個人成績は未掲載） 「全国中学生創造ものづくり教育フェア」 優秀賞2名 「子ども読書本のしおりコンテスト」 佳作1名 「税についての作文」 京都府納税貯蓄組合連合会会長賞2名		

成 果	① 本町教育振興計画を踏まえ、日々の生活の中で大切にしたいことや9年間を通して醸成したい項目を統一して掲げ、各家庭へも啓発したことにより、これに基づき一貫性のある指導と協力が得られ、挨拶や時間を大切にすることなどの項目をはじめ効果が上がっている。 ② 各種団体への作品応募を取り組むことにより、学習によって得た能力や特技の向上と一層の意欲喚起を図ることができた。また、応募結果や大会結果を児童生徒の前で伝達顕彰することで、更に効果が現れている。
課 題 認 識	① 教職員への周知や保護者への啓発をはじめ、学校教育だけではなく、保護者や地域住民を含め広く広報活動が必要である。 ② 教科内の時間において応募作品に取り組むことは難しく、家庭での課題学習となり、全員が取り組むことや作品へのアドバイスができない。
評 価 委 員 の 所 見	・リーフレット「大山崎っ子できます10」は9年間の見通しを意識し作成されているのが良い。また、達成するためにスモールステップで目当てを決め、啓発され、効果が確認されているとのことでは嬉しい。 ・引き続き、「大山崎っ子できます10」を、保幼小連携で就学前児、保護者等にも啓発するなど、生涯学習課とタイアップして本町の子ども達の育成に総掛かりで取り組む機運の醸成に期待したい。 今後、児童生徒が「10」に近付いているのか検証したり、リーフレットの内容そのものを見直したりしながら推進されることを願う。アンケート結果を公表することにより啓発に繋がる。 ・各大会等で優秀な成績を残されており、今後も継続した取組を期待したい。但し、これからの指導は教職員だけに任せるのではなく具体的支援の方向を検討されたい。 ・各種作品募集や大会に積極的に参加され、児童生徒の励みにも自信にもなり得るので評価できる。多彩な募集全てには対応できないから、教育課程に取り込めるものを精選し、年度当初に位置付けておくことで指導が可能となる。また、それ以外は個々に応募しても良いのではないかな。 ・作品応募の成績や活動の実績において、例年にも増して、好成績を残されており、素晴らしい。今後も積極的に取り組み、好成績を期待する。

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標6】安心・安全で、いじめのない楽しい学校づくりの推進 安全な環境の中で、いじめのない楽しい学校生活が送れるよう家庭・地域と連携・協働した取組を進める。		
事務事業名	いじめ問題への取組	担当部署	学校教育課
事業実績	1 「いじめ問題への取組の徹底」(教育長通知5月28日) 全校児童生徒を対象とした3回(各学期1回)のいじめ問題調査 ・調査方法: アンケート及び面接調査による実態把握 (3回目は2回目調査における追跡調査と日常の観察等による実態把握) ・調査結果を学校評議員やPTA本部役員に説明 ・学校だよりを通して概要報告 2 人権教育の学校の取組 <大山崎小学校>なかよし集会、人権週間の設定、学年毎の人権学習 <第二大山崎小学校>人権の木、人権週間の設定、学年毎の人権学習 <大山崎中学校>人権週間の設定、学年毎の人権学習、学年集会、教育相談の実施(6、11月) 3 学校におけるいじめ防止基本方針の研修・実施(平成26年4月より実施)及び校内いじめ防止対策委員会の定期的(ほぼ隔週)な実施 4 町いじめ防止対策推進委員会(専門職5人)、いじめ防止連絡協議会(乙訓の小中学校生徒指導主任)の実施		
成果	・アンケート及び面接による調査により、児童生徒の「いやな思いをした」という実態の把握や確認することができ、適切な指導をすることができた。 ・平成29年度に比べ、認知件数が半減した小学校もあった。 ・適切な対応により重大事態までには至らず終わることができた。 ・学校におけるいじめ防止基本方針に沿っての年度当初の確認や校内いじめ防止対策委員会の定期的な開催により、教員のいじめに関する意識が一層高まっている。		
課題認識	・いじめ問題の重要性といじめはいつ起こるかわからないという認識のもと、教員の人権感覚を高めるとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期対応をはじめ、いじめを許さない学校づくりへの組織的な取組の徹底が重要である。		
評価委員の 所見	・乙訓地域では人権擁護委員による中学生対象の人権教室も実施されており、あらゆる教育活動での人権教育の推進を期待する。 ・アンケート・追跡調査、面接、研修会等を行い、未然防止、早期発見・早期対応に努力された。ただ、全国ではいじめにより重大な事件になったというニュースが後を絶たない。今後も「いじめは、いつでもどこでも起きる」という認識がいるのではないかと。形骸化しないようにして、一人一人が自尊感情や自己有用感が持てるような居場所作り、いじめを許さない学校作りに取り組んでいただきたい。 但し、アンケートの時期は日々の指導に生かせるよう学期途中にできないか。 ・教職員の気付く力・鋭い人権意識、学級経営力、児童生徒理解・生徒指導力の向上が鍵になる。		

	・チーム学校として、校内体制、スクールカウンセラーや関係機関との連携が日常的に行えるように意識してほしい。
--	---

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標2】一人一人を大切にした教育の実施 特別支援教育、人権教育など一人一人を大切にした教育を推進し、その能力や可能性の伸長と実践的態度を育成する取組を推進する。		
事務事業名	特別支援教育推進事業	担当部署	学校教育課
事業実績	① 特別支援学級の設置 ・大山崎小学校 3学級（知的障害：2学級、自閉症・情緒障害：1学級） ・第二大山崎小学校 2学級（知的障害：1学級、自閉症・情緒障害：1学級） ・大山崎中学校 2学級（知的障害：1学級、自閉症・情緒障害：1学級） ② 通級指導教室の設置 ・大山崎小学校 通級児童数42名 ・第二大山崎小学校 通級児童数21名 ③ 個別の特別支援教育の充実 特別支援教育支援員（町単費）の配置 ・大山崎小学校 4人 ・第二大山崎小学校 4人 ・大山崎中学校 1人 ④ 大山崎町教育支援委員会 ・大山崎町教育支援委員会総会（6月11日、10月29日、2月18日開催） ・ // 就学前部会（6月11日、10月16日開催） ・ // 在学部会（5月24日、6月11日、10月23日、1月17日開催） ・ // 特別支援教育推進部会（6月11日、2月15日開催） ・ 各幼稚園、保育所への参観（9月～11月） ・ 保護者との就学指導についての協議 平成25年度から、教育支援委員会の審議結果を該当未就学児童の保護者に、より丁寧に経過説明と今後の就学指導をするため、従来の所属長等だけでなく、就学先校長や事務局も入り、連携して保護者との就学指導の相談と就学先を決めている。 ⑤ 特別支援学級「卒業・進級を祝う会」（2月13日実施）の取組		
成果	① 特別支援教育支援員の配置により町内二小学校の特別支援学級では、個々の児童に個別に対応でき、児童の学校生活面においても、情緒の安定につながり、また、学力向上にもつながってきている。 ② 大山崎町教育支援委員会の審議結果等を該当未就学児童の保護者に関係機関の長等が入って伝えることにより、就学についてより深く丁寧に懇談することができ、就学先決定に参考となる協議ができた。		
課題認識	・ 特別支援学校見解の児童の在籍や通常学級における特別な支援が必要となる児童生徒の在籍割合が多くなる中、どのような支援体制を確立し、どのような支援ができるかを認識し、実践する必要がある。		

評価委員の 所 見	・各校に知的障害及び自閉症・情緒障害、それぞれの学級が設置されていることは非常に評価できる。 ・特別支援教育を実施する上で、保・幼・小・中の連携は重要であり、今後も連携を密にし、適切な指導が実施されることを期待する。 ・両小学校に設置されている通級指導教室は、利用児童数も多く、その役割は重要である。通級指導教室の高校への拡大が始まる。大山崎中学校においては特別支援教育支援員の配置が行われ、評価するも、インクルーシブ教育の視点からも通級指導教室の設置が望まれる。 ・「大山崎町教育支援委員会」の内容の充実を期待する。 ・特別支援教育支援員の配置は、大変望ましい。ソフト面の「合理的配慮」の視点で更に人員増及び専門性のある人材が配置されるよう願う。
----------------------	--

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標7】指導体制の充実 指導方法の工夫改善、教育相談など、組織的な指導体制づくりを推進する。また、 幼小中の連携・接続を踏まえた教育体制を推進する。																						
事務事業名	適応指導教室事業	担当部署	学校教育課																				
事業実績	① 大山崎町適応指導教室「たけのこ教室」の設置 〈設置の目的〉 大山崎町立小中学校に在籍する不登校児童生徒の自立を促し、学校への適応を 図るため、適応指導教室「たけのこ教室」を設置する。 〈設置場所及び開設時間〉 開 室 日：平成30年6月19日（火） 場 所：大山崎町立中央公民館 開室日時：毎週火・水・金曜日 午前9時30分から正午まで （祝日・長期休業日を除く） 〈指導体制〉 適応指導教室指導員1名、教育相談員（臨床心理士・社会福祉士）3名 〈運営会議〉※主な協議内容 第1回（ 4月18日）指導内容・業務内容・環境整備について 第2回（ 5月 9日）広報について、不登校児童生徒の状況について 第3回（ 5月21日）保護者及び学校への説明文書について 研 修（ 6月 4日）茨木市教育センター「ふれあいルーム」の視察 第4回（ 6月11日）「たけのこ教室」での1日の指導の流れについて 第5回（ 7月25日）1学期の総括について、夏の体験学習について 第6回（ 8月21日）2学期の取組内容について 第7回（12月19日）2学期の総括、3月の取組内容について 第8回（ 3月27日）今年度の総括、次年度の運営について 〈入室状況〉 （単位：人） <table><tr><td>小1</td><td>小2</td><td>小3</td><td>小4</td><td>小5</td><td>小6</td><td>中1</td><td>中2</td><td>中3</td><td>合計</td></tr><tr><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>11</td></tr></table> 〈基本的な指導内容〉 朝の会、学習①、学習②、自由活動、終わりの会 〈体験学習・社会見学〉 8月21日（火）「おいしい焼きそばを作ろう」 10月 3日（水）「町体育館へ行こう」（卓球） 11月 9日（金）「歴史資料館へ行こう」 11月21日（水）「町体育館へ行こう」（バドミントン） 12月14日（金）「クッキー・ホットケーキを作ろう」 2月 1日（金）「陶芸をしよう」 3月13日（水）「卒業・進級をお祝いしよう」			小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計	0	0	0	3	1	0	2	2	3	11
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計													
	0	0	0	3	1	0	2	2	3	11													

成 果	① たけのこ教室開室にあたり、運営会議や施設見学において運営方針や指導内容、教室環境の整備等を協議し、共通認識をもって開室を迎えることができた。町内各学校を訪問し、運営方針や取組内容を説明し、不登校児童生徒対応策の一つとして「たけのこ教室」があることを周知することができた。 ② 通室にあたって、保護者や児童生徒本人との面談をとおして、通室内容や通室日するなど、個々の状況やニーズに応じた通室の仕方を確認しながら通室を進めることができた。また、児童生徒によっては、定期テストや諸行事などで学校の登校につながられるケースもあった。 ③ 指導員や教育相談員による毎日の記録をもとに、毎月のたけのこ教室での出席状況や様子について報告書を作成し、児童生徒の頑張りや課題を各学校と共通認識することができた。また、学校でのケース会議や保護者面談に参加し、不登校改善に向けて連携することができた。
課 題 認 識	① 学校との連携をさらに密にするために、次年度は学校との定期的な連絡会議を設定する。 ② 児童生徒の中には、しばらくは通室できていたが突然できなくなったケースや、保護者による申し込みはあったが、一度も通室できていないケースもある。本人や保護者への働きかけの方法などについて、学校と共通理解のもと検討していく必要がある。
評 価 委 員 の 所 見	・大山崎町立小中学校に在籍する不登校児童生徒の自立、学校への適応を促す適応指導教室が開設されたことは、素晴らしい。 ・保護者や児童生徒本人との面談を実施し、個々の状況やニーズに応じた通室の仕方を検討されたことは、評価できる。 ・せっかく通室できていた児童生徒が、突然できなくなることは残念である。通室を継続できるよう、本人や保護者へ積極的に働きかけられたい。 ・新設「たけのこ教室」が不登校児童生徒の自立を促すために設置されたことは、学びの機会均等・保障の点からも評価できる。社会問題化している大人の引きこもりのことも頭に浮かぶので、今後、関係機関と連携しながら中学校生徒の進路保障に繋ぐ等の内容の充実を望む。

事務事業番号<10>

(平成 30 年度事業)

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標4】 健やかな身体の育成と体力の向上 生き生きと逞しく生きるため、体育・スポーツ活動に親しむ習慣や望ましい食習慣をはじめ、健康的な生活を実践する態度を養う。		
事務事業名	小学校給食	担当部署	学校教育課
事業実績	① 学校給食実施 実施児童数 870人（平成 30 年5月1日現在） 米飯給食 週4回実施 ② 安心・安全な給食を実施するための衛生管理及び食中毒防止対策 給食施設の監視指導及び給食調理員・栄養教諭（職員）を対象に衛生研修会を実施。また、給食室害虫駆除、調理従事員等保菌検査等を実施。 ③ 学校給食調理等業務委託実施（全小学校）		
成果	・学校給食の給食調理員・栄養教諭（職員）を対象とした衛生研修会では、スライドを使用した研修方法を実施し、給食調理員・栄養教諭（職員）の衛生管理の意識向上を図ることができた。		
課題認識	・既存給食施設を改修し、学校給食衛生管理基準にいかに対応させるかが大きな課題である。		
評価委員の 所見	・両小学校とも給食施設の老朽化は甚だしい。学校給食衛生管理基準に適合した施設とするためには大幅な設備改修も必要であり、無駄のない改修計画を検討されたい。 ・栄養教諭による食育の指導も重要な役目を担っており、研修等も含め今後も継続されたい。 ・今後も適切なアレルギー対応等が施された安心・安全な給食提供を望む。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 8】教育効果をあげる教育環境の充実 学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。		
事務事業名	中学校給食導入事業	担当部署	学校教育課
事業実績	中学校給食の導入（給食センター建設）に向けて、実施設計を行った。		
成 果	- 平成 28 年度までの「中学校給食の導入に向けての検討」を踏まえて、平成 29 年度において、給食センター建設敷地を「体育館第二駐車場（中学校前の東側公有地）」に確定し、施設整備計画、概算工事費、特例審査に関する協議等、基本設計を実施した。 - 基本設計に基づき、「中学校給食施設等実施設計業務」を実施したが、町長の交代に伴い、センター方式から自校方式による給食提供に方針が変更された。		
課題認識	中学校給食の実施方式が自校方式に変更されたことに伴い、両小学校の給食実施方式も自校方式を継続することになった。		
評価委員の 所 見	- 中学校給食は平成 28 年度までの検討委員会の提言を基に、予算化もされ計画的に進められてきて、当初平成 32 年（令和 2 年）9 月に中学校給食実施予定だった。給食提供の方針が変更されたことにより、中学校では、給食の開始時期が遅れることも予想される。 - 近隣市では、中学校給食が始まっている。「学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。」とある重点目標 8 の早期実現を望む。いずれにしても生徒や関係者に影響が出ないよう早急な対応を願う。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標5】信頼を高める学校づくりの推進 家庭や地域社会と連携・協働して、信頼に応える学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。		
事務事業名	教師力向上事業	担当部署	学校教育課
事業実績	① 大山崎町学力向上対策会議 児童生徒の学力の充実・向上を目指し、町学力向上対策会議（担当校長、担当教頭、各校教務主任、学力向上担当、指導主事で構成）を年3回実施した。 各校の府学力診断テスト（小4、中1・2）、全国学力・学習状況調査（小6、中3）及び標準学力調査（小2・3・5 町費負担）の分析を行い、成果と課題を交流し、小中学校間の系統的な課題克服に向けた方策の検討と実践や、小中連携の研修会に取り組んだ。 ② 大山崎町小中連携事業 本研修会は、小中連携会議で企画・立案し、小中の円滑な接続、児童生徒の実態交流、授業実践力や生徒指導力の向上について研修を実施した。 〈中学校授業公開〉 開催日：6月22日（金） 会場：大山崎中学校 内 容：公開授業参観・全体会・グループ協議 〈小中連携研修会〉 開催日：8月20日（月） 会場：大山崎中学校 内 容：生徒指導・教育相談等について小中連携の観点でグループ協議 〈中学校での体験授業〉 開催日：10月30日（火） 会場：大山崎中学校 内 容：小学校6年生のための中学校体験授業 生徒会による行事、部活動の紹介 〈小学校授業公開〉 開催日：2月7日（木） 会場：両小学校 内 容：公開授業参観、事後研究会 ③ 町立小・中学校新規着任教職員研修会 開催日：8月3日（金） 参加人数：13名 内 容：午前は、新規教職員対象の研修会 午後は、新規教職員と着任教職員対象に、大山崎町の歴史についての講話と、その後は大山崎町内の史跡名所等の現地学習 ④ 道徳教育研修会 本研修会は、児童生徒への道徳的实践力を育てるため、教師の授業力の向上を目指して実施した。 開催日：8月20日（月） 参加人数：約80名 内 容：「特別の教科 道徳」の実施上の留意点について 講 師：京都府乙訓教育局 指導主事 ⑤ 研究指定に係る公開授業・授業研究会 大山崎中学校では、平成30年度京都府乙訓教育局「OASIS 校」、大山崎町教育委員会の指定を受け、公開授業研究会を実施した。		

事業実績	開催日：11月21日（水） 内 容：研究授業（社会・数学・理科・音楽）、事後研究会、全体会、指導講評（乙訓教育局指導主事） ⑥ 指導主事・教育委員学校訪問 町「学校教育の重点」の趣旨の実現に向けた教育活動の充実を図るため、各学校の課題について必要な指導助言を行うことを主な目的として、「指導主事・教育委員学校訪問」を1学期に町内全小・中学校で実施した。全学年・学級での公開授業を参観し、人材育成、指導力向上の観点で指導助言を行った。 開催日：6月 5日（火） 大山崎小学校 6月20日（水） 第二大山崎小学校 6月21日（木） 大山崎中学校 内 容：一般授業参観、授業に対しての指導助言
成 果	① 小中連携研修会では、これまでの取組を見直して、小中の円滑な接続、児童生徒の実態交流、授業実践力や生徒指導力の向上をテーマに、取組を実施した。各校の取組の様子を交流したり、実際に児童生徒の状況を参観したりすることを通して、それぞれの学校の状況を把握したり、望ましい連携・接続について深めることができた。 ② 本町では、夏季休業中の教職員の道徳研修会は十数年続いている。その取組の成果として、平成30年度の指導主事・教育委員学校訪問では、中学校の全学級で道徳の授業を公開。資料の選定や授業内容も児童生徒の心に響くようになり充実してきた。
課 題 認 識	① 若手教職員が増えていく中、ミドルリーダー及び若手教職員の育成と授業力向上に向けた研鑽が今後の課題である。 ② 不登校の増加や発達課題のある児童生徒の対応などが課題となっている。効果的な研修となるよう、内容を再検討していく必要がある。
評価委員の 所 見	・小中の円滑な接続、児童生徒の実態交流等、これまでの取組を見直されたことは注目に値する。これまで以上に小中連携が充実することを期待する。 ・新規採用教職員・着任教職員研修は、児童生徒と「大山崎町」を学ぶ上で欠かせない意義あることであり、今後も継続して実施されることを望む。 ・教職員の世代交代が進む中、授業力（指導技術）の継承、新学習指導要領に向けた工夫改善、危機管理意識等の特にミドルリーダーや若手の人材育成が急務である。 ・教師力というところ、学力・授業に視点がいくが、そのベースとなる児童生徒理解、生徒指導、学級経営の中で児童生徒に居心地の良い場所を創り出す力の育成を望む。特別支援・人権等の実践的指導力や人間性・社会性といったソフト面の教師力も重要視したい。その意味で道徳の授業研究は素晴らしい。今後も「考え議論する道徳」の推進を望む。 ・児童生徒に望む新しい時代に対応できる力は教職員にも期待されている。教育課題も多い中、今後もキャリアステージに応じたキャリアアップ計画を立てさせ、OJTを含め意識的に実践的指導力の向上を図る必要がある。今後、研修にweb活用や自主的な教員研修等のできる環境が準備されると良い。 ・京都府教育委員会の「求められる京都府の教員像」「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」も活用されたい。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">• 各校の講師も多いから、教育の質の向上を願う上で研修の必要性を感じる。• 「教育は人なり」教師力の向上がチームとして協働する学校力の向上に繋がる。 |
|--|---|

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標6】安心・安全で、いじめのない楽しい学校づくりの推進 安全な環境の中で、いじめのない楽しい学校生活が送れるよう家庭・地域と連携・協働した取組を進める。		
事務事業名	子どもの安心・安全に関する事業	担当部署	学校教育課
事業実績	◇通学路の安全対策 大山崎町通学路安全推進会議の実施 【実施日】 11月12日(月) 【参加関係機関】 近畿地方整備局、京都国道事務所、京都府、乙訓土木事務所、向日町警察署、見守り隊代表、PTA代表、町立小学校、乙訓教育局、建設課、経済環境課、政策総務課、教育委員会 ・通学路における対策必要箇所の進捗状況の確認と新規対策必要箇所の選定(交通安全面：継続6箇所、新規8箇所)(防犯面：新規4箇所)をした。また、合同点検を行い、対策必要箇所の現場確認を実施した。		
成果	・通学路安全推進会議を開催し、対策必要箇所の状況把握や合同点検を通して、安全対策及び防犯対策に向けて関係諸機関と連携することができた。		
課題認識	① 年間を通した子ども安全見守り隊、PTAによる安全指導の継続的な取組、交通指導員の通年配置、青色パトロール車による防犯活動等、ソフト面では地域ぐるみで連携した安全・安心の確保が浸透しているが、ハード面も含めた防犯カメラの設置の推進や道路事情の変化に対応した更なる取組が必要である。今後も関係機関が連携しての継続的な確認と点検、対策の取組が必要である。また、日常を通しての防災、防犯対応も含めた更なる安全教育も必要不可欠である。 ② 毎年、通学安全推進会議を実施し、今後の町内道路状況の変化に合わせ危険箇所の抽出、また必要な安全対策及び防犯対策を検討する必要がある。		
評価委員の 所見	・雨の降りかたや夏の体温を超えるような高温等、近年は自然環境が以前に増して厳しくなっている。このような変化に遅れることのないよう、普段から備えを十分に行い、家庭・地域・行政が連携し、児童・生徒の安全を確保するよう努められたい。 ・児童生徒自身に事故・事件・災害等から学び、防犯・防災「自分の身は自分で守る」指導も期待する。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標7】指導体制の充実 指導方法の工夫改善、教育相談など、組織的な指導体制づくりを推進する。また、 保幼小中の連携・接続を踏まえた教育体制を推進する。		
事務事業名	幼稚園就園奨励事業	担当部署	学校教育課
事業実績	① 大山崎町私立幼稚園就園奨励費補助金 保護者の町民税の所得割課税額に応じて補助金を交付 (園児182人、総額22,880,300円) ② 大山崎町私立幼稚園児教材費補助金 10月1日現在、私立幼稚園に在園している満3歳以上の園児の保護者全員 に交付 保護者に園児1人あたり42,000円 (園児209人、総額8,778,000円) ③ 大山崎町私立幼稚園設備費補助金 町内私立幼稚園に設備、備品の購入に要する経費に対し補助金を交付 (実績総額210,000円) ④ 大山崎町乙訓私立幼稚園協会研究補助金 協会が行う教育研究事業を実施するための経費を対象に補助金を交付 (乙訓私立幼稚園協会、総額65,000円) ⑤ 第3子無償化事業 多子世帯の保護者の経済的負担を軽減するために補助金を交付 (対象園児10人、総額1,366,400円)		
成果	① 私立幼稚園児の保護者の経済的負担を軽減することができた。また、引き続 き第3子無償化事業を実施し、多子世帯の保護者の経済的負担を軽減し、安心 して子どもを生み育てられる環境づくりに繋がった。 ② 大山崎町私立幼稚園設備費補助金を交付することより、私立幼稚園の設備、 備品の整備を促進することができた。 ③ 幼稚園教諭の研修会等の実施経費を補助するなどの支援を行うことにより、 幼児教育の振興を図ることができた。		
課題認識	国の基準で交付している私立幼稚園就園奨励費補助金は、平成30年度において 国庫補助金割合が平成29年度に比べ増加したものの、町の負担が大きい状況に ある。 ・26年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額24,710,400円 (国庫補助金6,141,000円 町単費18,569,400円) ・27年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額24,190,800円 (国庫補助金7,038,000円 町単費17,152,800円) ・28年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額22,386,000円 (国庫補助金6,854,000円 町単費15,532,000円) ・29年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額23,321,200円 (国庫補助金7,403,000円 町単費15,918,200円) ・30年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額22,880,300円 (国庫補助金7,601,000円 町単費15,279,300円)		

	幼稚園無償化の政府方針を受け、利用者の混乱を招かないように円滑な移行が必要である。
評価委員の 所見	・就園奨励費補助金は、町の財政負担が大きくなっているため、国庫補助率が引き上げられるよう国に要望する必要がある。 ・当該補助金に関する事務が複雑化しており、事務の簡素化も望まれるところである。 ・子どもの貧困が教育に悪影響を与えていることが、社会問題化していることに鑑み、今後も経済的な支援が継続されることを期待する。 ・幼児教育の無償化への理解を利用者に啓発する必要がある。

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標8】教育効果をあげる教育環境の充実 学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。		
事務事業名	学校施設・整備事業	担当部署	学校教育課
事業実績	・第二大山崎小学校裏門扉改修工事 ・第二大山崎小学校管理棟1階トイレ改修工事 ・大山崎小学校防球ネット設置工事 ・大山崎町学校施設長寿命化計画策定		
成果	・大山崎小学校のトイレ改修等、児童へ良好な教育環境を提供できた。 ・学校施設の老朽箇所の改修を実施し、児童が安全で安心して学ぶことのできる教育環境の整備を図ることができた。 ・大山崎町学校施設長寿命化計画を策定し、今後の学校施設整備の方針を示すことができた。		
課題認識	・小学校施設は建築年数が40年以上と相当経過しており、改修を要する部分が散見される。そのため、今後策定した大山崎町学校施設長寿命化計画に基づき、施設の長寿命化等を進める必要がある。 ・児童が安心して学校生活を送ることができるよう計画的な教育環境の整備が必要である。 ・多様化する社会的ニーズを捉え、施設機能の充実を検討する必要がある。		
評価委員の 所見	・大山崎町学校施設長寿命化計画を策定されたことは喜ばしいことである。今後はその策定計画に基づき、施設改修を着実に実施されたい。 ・策定計画の中にいつ計画されているかは分からないが、良好な教育環境を保つため、外壁の改修、教室の内装改修等積極的に改修に取り組んでいただきたい。 ・中学校においては、築後年数も浅く大幅な改修工事は必要ないが中長期的な施設保全を計画されたい。 ・築年数が経てば改善・改修箇所が増えることも予想される上に、給食施設・設備の建設もある。社会教育関係の公民館等のこともある。技術部署として担当係を独立させられないか。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 8】教育効果をあげる教育環境の充実 学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。		
事務事業名	災害復旧事業	担当部署	学校教育課 生涯学習課
事業実績	≪学校教育課≫ ・大山崎小学校スロープ復旧工事（大阪北部地震） ・第二大山崎小学校体育館屋根防水復旧工事（台風 21 号） ・第二大山崎小学校建具改修工事（台風 21 号） 等 ≪生涯学習課≫ ・社会体育倉庫屋根、扉復旧工事（大阪北部地震、台風 21 号） ・町体育館ネットフェンス復旧工事（台風 21 号） ・岩崎テニスコート日除け復旧工事（台風 21 号） 等		
成果	・地震、台風に伴い発生した施設への被害を復旧することができた。 ・国庫負担金等を活用し、町の財政負担を縮減した。		
課題認識	・被害を受けた施設を迅速に復旧することが必要である。		
評価委員の 所見	・日頃、防災を意識して取り組んでも、近年の自然災害には想定を上回る事象が起きている。一旦起されば、迅速な復旧が望まれる。財政負担を縮減すると共に、首長部局とも調整し、技術職員の人的対応も必要ではないか。 ・近年地震や台風等による自然災害が増加しており、老朽化した学校施設の被害も増加することが予想される。危険を少しでも軽減するためにも、被害を受ければ迅速に復旧工事を実施されたい。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標11】地域社会の教育力の向上 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会総がかりで子どもを健全にはぐくむ 環境づくりを推進する。		
事務事業名	ときめきチャレンジ推進事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	【土曜日開催】 ①6月16日 バルーンアート体験 参加者：38名 協力：Friendly Balloon Shop 澤田 雅子 氏 ②9月22日 パステルアート体験 参加者：35名 協力：アトリエ WAKKA 山根 陽子 氏 ③10月13日 フラワーアレンジメント体験 参加者：18名 協力：山本 隆子 氏 ④11月24日 ヒップホップダンス教室 参加者：26名 協力：ダンススペース 松村 由美子 氏 ⑤12月8日 凧作り&凧あげ ～オリジナルデザインの凧を作ろう！～ 参加者：30名 協力：ときめきチャレンジ推進事業運営委員 ⑥2月9日 お茶会教室 参加者：21名 協力：友あそび ⑦3月9日 空育®JAL 折り紙ヒコーキ教室 参加者：42名 協力：日本航空(株)土井裕二 氏, 久保順 氏, 三宅誠二 氏, 八塩久美子 氏, 塚本英喜 氏 【平日開催】 ※いずれも(水) ◇プログラミング教室 協力：プログラミングネットワーク京都 蘆田 昇 氏, 安藤 実紀子氏 場所：大山崎小学校 ① 11月21日 参加者：22名、② 11月28日 参加者：21名 場所：第二大山崎小学校 ① 12月5日 参加者：23名、②1月9日 参加者：19名 ◇生け花体験教室 場所：第二大山崎小学校 協力：鳥家 美翠 氏 参加者：①9月19日 7名 ②10月3日 13名 ③10月17日 12名 ◇料理教室 場所：大山崎小学校 協力：レリッシュ主宰 森 かおる 氏 参加者：①1月23日 20名 ②2月27日 20名 ③3月6日 20日 【図書室開放】 ※いずれも(水) ①7月4日 第二大山崎小学校 17名 , 7月11日 大山崎小学校 25名 ②9月12日 大山崎小学校 18名 ③10月17日 大山崎小学校 18名 ④11月7日 大山崎小学校 18名 ⑤12月5日 大山崎小学校 20名 ⑥2月13日 大山崎小学校 18名 ⑦3月13日 大山崎小学校 18名 【英語交流会】 ※いずれも(水) ①7月4日/第二大山崎小学校 15名 7月11日/大山崎小学校 16名 ②9月12日/大山崎小学校 14名 9月26日/第二大山崎小学校 16名		

	③ 10月17日／大山崎小学校 15名 10月31日／第二大山崎小学校 13名 ④ 11月7日／大山崎小学校 15名 11月21日／第二大山崎小学校 15名 ⑤ 12月5日／大山崎小学校 16名 12月12日／第二大山崎小学校 16名 ⑥ 2月13日／大山崎小学校 16名 1月16日／第二大山崎小学校 11名 ⑦ 3月13日／大山崎小学校 16名 2月27日／第二大山崎小学校 14名 【その他】 4月21日 人形劇とブックフェア 参加者：70名 協力：竹の子文庫、おぐら文庫
成 果	・土曜日および平日の体験活動には今年も総勢 400 名近い児童が、新しく始まった英語交流会および図書室開放には総勢 200 名以上の児童が参加し、土曜日や放課後の時間を活用して心身の健全育成に資することができた。 ・新しく始まった英語交流会の講師に国際交流員を置くことで、ホストタウン事業の周知、ひいては地域の活動への関心に繋げることができた。 ・教育活動サポーターを導入することにより、活動の幅を広げることができた。 ・平日の活動日を両校合わせて 20 日増やすことができ、より放課後子ども教室の目的である放課後の子どもの居場所づくりの達成に近づいた。
課 題 認 識	・教育活動サポーターの導入により、平日活動の拡大に伴う人材不足をある程度補うことはできたが、まだ登録数は多くない状況であり、引き続き人員の確保が必要となる。 ・現在事務局主導で運営している状態であるが、今後も活動を広げる上で運営方法についても検討していく必要がある。
評 価 委 員 の 所 見	・社会教育団体との連携により、様々な企画を立案・実施されていることは評価できる。 ・教育活動サポーターの導入により、平日活動が拡大されたことは喜ばしいことであるが、放課後児童クラブとの一体型の取り組み方に十分な検討と工夫をお願いしたい。 ・英語交流会はタイムリーな活動である。国際交流員の活用も有効であった。 ・教育活動サポーターの導入は非常に評価したい。保険・報酬等の予算が必要かもしれないが、地域学校協働活動にも繋がる。 ・参加者が増えれば事務局に変わるコーディネーター的役割を担う教育サポーターの必要性を感じる。

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標10】家庭の教育力の向上 家庭教育の自主性を尊重しつつ、教育の出発点である家庭の教育力を高めるための支援を推進する。		
事務事業名	子育て講座事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	豊かな心をはぐくむ家庭の教育力を高めるための学習機会とすることを趣旨とし、子育て講座を実施した。 平成30年度子育て講座「親子でハッピークッキング」 内容：親子でのグラタン、スパゲティー、バター作りの後、子育てと食育に関する講話を行った。 場所：中央公民館 参加者：16名（大人7名 こども9名） 講師：スマイルプレイス代表 幸山 由佳 氏 ※このほか、「親育ネットおとくに」協議会に参画し、職員が年間を通じて会議やイベントに出席・参加している。		
成果	- 親子での調理体験を通じて、親子が向き合える機会の提供、より良い関係づくりに資することができた。 - 講師の助言もあり、子どもたちが主体的に調理に取り組むことができていた。		
課題認識	予算や会場の関係で、限られた定員の中で最大限の効果を得る取組内容を、今後も引き続き模索していく必要がある。		
評価委員の 所見	- 親子での調理体験を通じて、親子が向き合える機会が提供されたことは喜ばしいことである。社会教育として、家庭の教育力を高める努力をされていることを評価する。引き続き家庭のニーズに合った講座を期待する。 - 今後も家庭の教育力の向上のための良い機会を提供できるよう、取組を充実させてほしい。そのためには、予算の確保も重要である。 - 今後、図書室等も「重点目標13 社会教育施設の活用」だけでなく「重点目標10 家庭の教育力の向上」の施策を担えないか。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標12】人権教育・啓発の推進 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向け、人権意識を高め人権感覚を身に付ける取組を推進する。		
事務事業名	人権教育・啓発の推進事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	本町では、様々な人権問題についての理解と認識を深めるための町人権教育研修会をはじめとするイベントを開催するとともに、人権週間や人権強化月間における街頭啓発の実施など、多様な機会・場を活用した教育、啓発活動に努めている。 平成30年度第1回大山崎町人権教育研修会 8月29日(水) 演題:「部落差別解消法を受けて」 場所:中央公民館 参加者:58名 講師:長岡京市北開田会館人権教育指導員 河村 彰一 氏 平成30年度第2回大山崎町人権教育研修会 12月12日(水) 演題:「女性も男性も幸せにする北欧の男女平等」 ※男女共同参画事業講演会を兼ねて実施 場所:中央公民館 参加者:44名 講師:京都府立大学教授 上掛 利博 氏		
成果	同和問題や、男女共同参画の視点を踏まえた女性差別問題について、正しく認識し、豊かな人権感覚を養うことができた。個性・環境・文化・価値観が異なる人々が、共に生きる(暮らす)ためには、たくさんの人々が理解を深めることが大切であることから、本年度も継続的に実施することができた。		
課題認識	すべての“人権問題”の解決に向け、人権尊重を日常生活の習慣として身に付けるために、今後も継続的に学ぶ機会を提供するとともに、一層啓発活動を充実させ、より多くの参加を目指す必要がある。		
評価委員の 所見	・毎年8月の人権強化月間に合わせて開催されている本事業は、人権問題を考える良い機会となっており、今後も継続して実施されたい。 ・平成30年度は世界人権宣言が国連総会で採択されて70周年を迎える年にあたり、学習機会を設けられた意義があった。自分の性に違和感を覚える人、いわゆる性的マイノリティなどが話題となっているが、社会的少数者への人権尊重など、多くの学習機会を設けて人権啓発に努められたい。 ・人権問題をいろいろな切り口から考えることは大切であり、研修会を年2回と固定せず、多くの学習機会を設けて人権意識の高揚に努められたい。また、参加者の裾野を広げることも必要か。 ・各学校のPTA研修の中に「人権研修会」が位置付いているか。さらに、この事業を学校教育との連携で進められないか。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標9】生涯学習の振興 生涯にわたって、多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯をとおして、理解し合い、学び合うまち」づくりを目指して、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。		
事務事業名	大山崎町成人式事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	第 66 回大山崎町成人式 平成 31 年 1 月 14 日 (月・祝) 第 1 部 開会の辞、国歌・町歌斉唱、式辞、祝辞、くす玉割り、新成人の誓いの言葉、祝電、閉会の辞、集合写真 第 2 部 あり 会場：大山崎町体育館 スタッフ 前日 8 名 / 当日 15 名 第 2 部実行委員 応募者あり 商工会マスコットキャラクター (着ぐるみ) ララン出演 町内新成人：対象 160 名 出席 105 名 出席率 65.6% 町内外合わせた出席数 男 62 名 女 54 名 総数 116 名 記念品：①アサヒビール大山崎山荘美術館の招待券 ②スポーツタオル (特定非営利活動法人ワークショップ友愛印刷 就労継続支援 B 型事業所) ・ 誓いの言葉発表者は、中学校 3 年生当時の学年主任と担任の先生と相談し、候補者 (男・女) に直接依頼		
成果	・ くす玉割りやララン (着ぐるみ) の出演など、大山崎町らしい温かな成人式を実施することができた。 ・ 会場を乱すような参加者はおらず、円滑に執行することができた。 ・ 第 2 部実行委員の応募があり、新成人自らが主体となって恩師からのビデオレターを録画・編集した。		
課題認識	・ 課を横断してスタッフがかかわる為、準備や運営等について、最終確認と情報の共有が不可欠。 ・ 来場時は集中して混雑するため、一時的にスタッフの人数に余裕がなくなる。 ・ 参加者増のための工夫が必要。		
評価委員の見所	・ 中学校で学んだ頃と同窓会的な役割も担っており、参加してよかったと思えるような事業の実施が望まれる。30 年度は第 2 部のスタッフ応募者があり企画が充実したと思うが、毎年応募者があるかどうかの心配がついて回ることになる。第 2 部のやり方を再検討する必要があるのではないか。 ・ 受付は、2 部の応募スタッフにも協力を得たらどうか。 ・ 今後 (2022 年 4 月?) 18 才成人もあり得る。その時の在り方も早くから検討していく必要がある。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標9】生涯学習の振興 生涯にわたって、多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯をととして、理解し合い、学び合うまち」づくりを目指して、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。		
事務事業名	男女共同参画事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	本町では、男女共同参画社会基本法に基づき平成17年3月に「みとめ愛プラン」(男女共同参画計画)を策定し、第2次・第3次計画と見直しを行うとともに、町広報誌、町ホームページを通じた啓発活動に努めている。 また、男女平等をテーマとした講演会を開催した。 演題：「女性も男性も幸せにする北欧の男女平等」(再掲) ※人権教育研修会の第2回講演会を兼ねて実施 日 程：12月12日(水) 場 所：中央公民館 参加者：44名 講 師：京都府立大学 教授 上掛 利博 氏 輝く女性応援京都会議(乙訓地域会議)の会議や「京都おとくに Connection2018」、DV 被害者支援研修への参加。 HP や町広報誌を活用した町民への周知、啓発。		
成 果	・町民のワークライフバランス意識の向上に資することができた。 ・女性団体間、ならびに団体と町との繋がりを強化できた。 ・DV について町民への周知を図ることができた。		
課 題 認 識	・今後もDV や、男女共同参画について町民に広く周知し、啓発を進めること等により、地域の方が男女共同参画を自らの課題として考え、互いに協力し合うことができるように努める必要がある。 ・限られた予算の中で事業効果を得られるよう、より効果的な手法を検討し講じていく必要がある。		
評価委員の 所 見	・新たに策定された第3次男女共同参画計画「みとめ愛プラン」を、広く町民に知ってもらえるような施策として講演を企画された。人権研修会と兼ねられたのも良かった。 ・第3次男女共同参画計画「みとめ愛プラン」が策定されて2年以上が経過するが、本町において同プランへの関心は高くないように推察する。男女共同参画に関する認知度を上げるため、町挙げてのPR が必要ではないか。6つの基本理念を基に、庁内推進体制を整備し、具体的な数値目標や今後の計画を検討し、町民との協働による推進に努められたい。 ・数ある人権問題の中で男女共同参画事業として取り出す意義があるなら、啓発のみではなく女性独自、又は全てのジェンダーの協働活動事業が必要ではないのか。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標9】生涯学習の振興 生涯にわたって、多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯をととして、理解し合い、学び合うまち」づくりを目指して、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。		
事務事業名	ホストタウン事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	1 役場庁舎内ならびにふるさとセンターにホストタウンに関する常設の展示コーナーを設置 平成30年4月から3ヵ月ごとに更新(平成28年10月から継続実施) 2 平成30年度大山崎町ジュニアスポーツ派遣事業 11月23日(金)～24日(土) 参加:16名 ①体幹トレーニングの講義 ②異種目体験(少林寺拳法) ③大学施設見学 ④在日スイス大使館を訪問し、駐日スイス大使と交流 3 「大山崎町スイスフェア2019」 2月23日(土) 参加:約300名 ①スイス伝統音楽の演奏会 ②スイス伝統文化の切り絵体験 ③スイスの逸話ウィリアムテルをモチーフにした射的体験 ④スイス関連物販(スイス菓子、スイス料理) ⑤その他(啓発パンフ等の配布、事業紹介展示 等) 4 オリパラ教育推進事業 講演会 日時 12月12日(水) 対象 大山崎中学校全校生徒 講師 全盲のマラソン選手 井内奈津美氏 障がいがありながら社会生活を送る実際と、ブラインドマラソンに挑戦し、目標をもって生活する中で、考えていることなどを話された。 5 スイス人国際交流員を任用 本町のホストタウン事業推進のために、スイス人の国際交流員1名を継続任用した。主な業務はホストタウンに係る情報収集や情報発信、翻訳業務、各種関連口座の企画・運営やスイスとの交渉など。 期間=平成30年4月から(平成29年7月24日から継続) 配属先 生涯学習課生涯学習・スポーツ振興係 6 スイス連邦渡航事業 日程 4月12日(木)～17日(火)4泊6日(機中1泊) ホストタウン事業の推進を図るため、町長と事業担当課長がスイス連邦を訪問。現地のフェンシングクラブの視察や、領事事務所、基礎自治体等の関係者との協議を持った。		
成果	・昨年度に続き3回目となった「大山崎町スイスフェア」は、多数の来場者があり盛況裏に終えることができた。東京オリンピック・パラリンピックに向けた気運の拡大に資することができた。 ・ホストタウン相手国スイスの文化(食・民族・音楽など)の理解が深められた。		

	・事業を通じ大山崎町とスイスとの繋がりを住民の方々が身近に感じるきっかけとなった。 ・「ジュニアスポーツ派遣事業」では、主にスポーツをしている児童が参加者の大半を占め、スポーツに対する関心や意欲を深めることができた。さらに、駐日スイス大使の好意により在日スイス大使館公邸を訪問し、大使との交流を持つことができた。
課 題 認 識	・関係団体と連携を取りながら情報の共有化と事業全体像の早期構築を進めていく必要がある。 ・スイスのフェンシングナショナルチームの事前合宿受け入れに向けた詰め交渉、協議が必要。
評 価 委 員 の 所 見	・ホストタウンとして、ジュニアスポーツ選手の派遣、オリンピック・パラリンピアンとの交流、あるいは相手国スイスの文化の紹介など、様々な取組をされており評価できる。 ・2020年のオリンピック・パラリンピックに向け3年目を迎える事業であり、積極的に様々な事業が展開されていることは素晴らしいことであるが、その後のこと、あるいはこの事業が本当に本町の将来にとって有益なのかどうか、慎重に検討しながら事業を実施してほしい。 ・フェンシングのホストタウンが他市にあれば情報交換等、連携されたい。 ・スイス国際交流員には更に活躍いただきたい。 ・オリンピックに参加する予定の多くの国、国内の多くの自治体で、まだホストタウンが決定していないと聞く。その中で早くから準備されている本町はモデルとなる。いよいよ準備段階も大詰め。

平成 30 年度 指 導 の 重 点 に お け る 目 標	【重点目標 1 1】地域社会の教育力の向上 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会総がかりで子どもを健全にはぐくむ 環境づくりを推進する。																										
事 務 事 業 名	放課後児童クラブ運営事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)																								
事 業 実 績	放課後児童クラブの開設（5クラブ） なかよしクラブ1・2、ともだちクラブ、でっかいクラブ1・2 ①放課後児童クラブへの入会児童の割合は近年高い率で推移しており、本事業の社会的な役割は大きくなっている。 ②障がいのある児童についても、児童の状況を保護者と協議しながら、指導員の加配体制を整え、可能な限りの受け入れを行った。 ・入会対象児童：町内在住の小学1年生～4年生（支援が必要な児童のうち、在籍実績がある児童については5、6年生も入会可） ・平日（月～金）：下校時から午後6時 ・土曜日：午前8時30分から午後6時 ・長期休業日（夏季を含む）及び振替休校日：午前8時30分から午後5時30分 【平成31年3月末現在各クラブの在籍児童数】 <table border="0"> <tr> <td>1）なかよしクラブ1</td> <td>・・・・・・</td> <td>41人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2） 〃 2</td> <td>・・・・・・</td> <td>59人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3）ともだちクラブ</td> <td>・・・・・・</td> <td>28人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4）でっかいクラブ1</td> <td>・・・・・・</td> <td>37人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5） 〃 2</td> <td>・・・・・・</td> <td>36人</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3"></td> <td>計 201人 (前年193人)</td> </tr> </table>			1）なかよしクラブ1	・・・・・・	41人		2） 〃 2	・・・・・・	59人		3）ともだちクラブ	・・・・・・	28人		4）でっかいクラブ1	・・・・・・	37人		5） 〃 2	・・・・・・	36人					計 201人 (前年193人)
1）なかよしクラブ1	・・・・・・	41人																									
2） 〃 2	・・・・・・	59人																									
3）ともだちクラブ	・・・・・・	28人																									
4）でっかいクラブ1	・・・・・・	37人																									
5） 〃 2	・・・・・・	36人																									
			計 201人 (前年193人)																								
成 果	・年間を通した保育計画に基づき、異年齢の集団生活を通じて入会児童の健やかな育成を図ることができた。また、でっかいクラブの移転に伴い、保護者に対しては、より児童の安心・安全な居場所として、家庭に代わる生活の場を提供することができるようになった。 ・前年度から継続して実施する「放課後児童クラブ事業推進検討委員会」では教育委員会事務局幹部職員を筆頭に、事務担当者、現場の指導員等が参画し、月に一度の頻度で事業に関する課題について検討・討議する場として活用している。																										
課 題 認 識	・年度ごとの各クラブの児童数の増減が激しく、入会児童数の予測が困難な面がある。 ・同一小学校にあるふたつの放課後児童クラブの間で、施設規模の違いによる児童数の格差が生じており、同様の保育活動を保つことが困難となっている。																										

評価委員の 所見	・放課後ときめきチャレンジ事業と時間が重複するため、児童の負担とならないよう、「放課後児童クラブ事業推進検討委員会」において十分な調整が必要である。 ・入会児童が増加傾向にあることから、この事業の必要性が窺える。「保護者が安心して働く、児童も健全に育つ」ために必要な施設。遊びの要素と学習の要素をバランス良く配する保育が望まれることから専門知識を備えた指導員の確保・養成が必要である。 ・危機管理・保育内容について指導者の研修も必要である。 ・児童が学校の人間関係を放課後児童クラブに持ち込んだり、逆にクラブの人間関係を学校に持ち込んだりすることがあるので、情報共有という意味でも学校との連携は必要である。 ・施設等については常に快適に過ごせる改善を望む。
---------------------	--

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標13】社会教育施設の活用 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	公民館管理運営事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	施設の貸出業務使用許可、施設の維持管理 一般使用団体は、2カ月前の1日から当日までに使用申請受付（サークル登録団体の使用申請は、3カ月前の20日から受付） 【使用申請後のキャンセル】 ・キャンセルは、使用予定日から7日前までは8割返金、それ以降は返金しない。 【利用変更】 使用申請後の変更 ・使用予定日の3カ月後の末日まで変更可能。ただし1回のみとする。 【休館日】 毎週月曜日、年末年始（12月28日から翌年の1月4日まで） 【開館時間】 8時30分～21時30分まで（別館は21時まで） <利用状況> 中央公民館開館日数 302日 中央公民館利用件数 2,873件 中央公民館施設利用率 31.7% 中央公民館利用者数 36,880人 1日当たり（平均） 122人		
成果	利用者に固定化の傾向が見られるが、町民の身近な学習施設としての役割を果たしている。		
課題認識	ホール・談話室の利用制限に伴い、利用者が減少している。今後の施設更新の方策等を検討し、公民館施設のサークル活動や学習しやすい環境の整備を図る必要がある。 町民の多様な学習ニーズに対応する公民館の管理や運営について検討が必要である。		
評価委員の 所見	・公民館の総合的検討を早急に行い、改修工事が1日も早く実現することを望む。 ・町民の身近な学習施設であり、改修工事中の公民館利用ニーズに配慮が必要である。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標13】社会教育施設の活用 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	各種公民館講座事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<各種公民館講座> 6月14日(水)～11月22日(木) 英会話 Café in 大山崎(前期6回、後期6回) 参加者：25名 講師：アドリアンフリース 氏 10月27日(土) 親子で作ろう「手作りラジオ」 参加者：20名 講師：上野山 和仁 氏 10月31日(水) 米粉のパンケーキ講座 参加者：8名 講師：佐藤 真希 氏 11月17日(土) 干支絵付け体験教室 参加者：27名 講師：田村 博文 氏 11月24日(土) はじめてのフラダンス体験教室 参加者：6名 講師：ナニプアロアロ悦子 氏 12月13日(木) シニアのための初めてのスマホ体験講座 参加者：8名 講師：KDDI(株) 斉藤 卓也 氏 1月26日(土) パーソナルカラー講座 参加者：9名 講師：宇野 菜央子 氏 2月16日(土) 型染め体験教室 参加者：5名 講師：井口 博 氏 3月16日(土) 錫(すず)の細工体験教室 参加者：14名 講師：中元 司 氏 3月23日(土) 人生最後の過ごし方-医療に対する希望- 参加者：26名 講師：梅山医院 院長 梅山 信 先生 <図書館事業> 4月22日(日) 人形劇とブックフェア (内容)人形劇「はなさかじい」 参加者：70名 出演：ミニシアターまる 中島香織 氏 ※ブックフェア…よく読まれている本や読み聞かせにお勧めの本(図書室から150冊)を紹介した。		
成果	多くの町民の学習意欲・仲間づくりに応えるために必要な施策であり、効果をもたらしていると考え。より多くの町民に幅広い公民館講座をお手軽に受講してもらおうと事業の展開を行った。		
課題認識	新しい公民館講座の取組も始めたが、受講生が少数の教室もあった。多様な学習機会の提供に向けた取組が必要であり、生涯学習の重要性をアピールし、更なる講座等の充実を図っていくためには、極力予算が掛からない方法を模索し実施していくが、その中でも必要な予算の確保も重要な課題である。		

評価委員の 所見	- 改修工事中も公民館活動を円滑に実施できるよう、必要な予算を確保しつつ多様な学習機会の提供に向けた検討をお願いしたい。 - 幅広い年代の参加を促す事業は難しいにしても、学習参加可能な時に講座が用意されていることは有り難いはず。個人のニーズの趣味的なもの、社会からの要請に基づくものまで予算、講座内容、広報等を検討し、さらに講座事業が充実していくことを期待する。 また、学んだ町民自らが講座を用意する等、学びを社会に還元できる機会を作ることも必要ではないか。 - 社会教育委員にも相談しながら、町民の学習ニーズの把握の仕方を検討してはどうか。
---------------------	---

事務事業番号<26>

(平成 30 年度事業)

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標11】地域社会の教育力の向上 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会総がかりで子どもを健全にはぐくむ環境づくりを推進する。		
事務事業名	子ども体験教室事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<子ども体験事業> 7月25日(水)・31日(火) ジャグリング体験教室 参加者：24名 講師：末吉 正和 氏・佐々原 鉄宅 氏 7月26日(木)・8月2日(木)・9日(木) 夏休み子ども陶芸教室 参加者：28名 講師：山崎 正裕 氏 8月3日(金) 身近な科学遊び教室 参加者：25名 講師：田原誠一郎 協力者：長岡京市環境の都 づくり会議 8月17日(金) 夏休みトールペインティング教室 参加者：33名 講師：坂本 依真里 氏 12月3日(月) 電池手づくり教室 参加者：8名 講師：マクセル(株)東出裕子氏 他3名		
成果	子どもたちの好奇心をくすぐる各種体験事業を実施することで、自主性、協調性をはじめ、多様な感動体験活動の場の提供ができた。		
課題認識	新しい教室を開拓し、実施することも重要ではあるが、現在実施している教室は大変人気があり、募集開始して直ぐに定員が埋まる状況である。このことから継続して実施することの大切さも考慮し、定員増及び効率的・効果的な教室を研究していく必要がある。		
評価委員の 見所	・子ども体験教室事業は、子ども達が初めて体験する企画がほとんどであり、興味を持って接することのできる良い機会であり、今後も継続して実施されたい。 ・多くの参加者を見込める取組にするには、日程、内容等、調整・検討が必要。地域や学校との連携で啓発することも必要である。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標13】社会教育施設の活用 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	文化のつどい事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	・11月4日(日) 中央公民館で開催 ・大山崎町社会教育関係団体が一斉につどい、ジャンルを超えた連携・交流を深めながら日々の活動成果を発表するとともに、心のふれあいを深め、地域文化の振興を図った。 ・地元の小中学生による作品展示発表、一般住民作品展示、行政展示、PRコーナーなど。		
成果	・天王山「ゆひまつり」と同時に開催したため、立地的にも老若男女多くの参加があった。 ・児童・生徒の作品展示や社会教育団体等の日頃の活動の成果を発表する機会となった。		
課題認識	・文化のつどいを単独開催した場合の集客には課題がある。 ・社会教育団体等の活動の展示についても、会員の高齢化により、資材の搬入や会場当番等の役割分担が負担になっているとの声も年々大きくなっている。開催する場合は、多くの人が集えるような企画が必要である。		
評価委員の 所見	・文化のつどいは、町民の様々な活動の発表の場となっており、今後も継続して実施されたい。 ・日々の活動成果を発表する側からも、多くの人が集えるような工夫が今後必要である。 ・文化的なイベントを一体的に行うと、調整はご苦労されるが、活気は出る。単独開催の必要性がなければ、また、社会教育団体のニーズがあれば、今後も何かの行事と同時開催されると集客が見込まれる。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 13】社会教育施設の活用 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	公サ連まつり事業	担当部署	生涯学習課 （中央公民館）
事業実績	・「第 18 回公サ連まつり」は 6 月 9 日（土）・10 日（日） 中央公民館で開催 中央公民館を拠点に活動する文化サークルの会員らで組織する公民館サークル連絡協議会が主催し、舞台発表や作品展示など、サークル相互の親睦、連絡調整、情報交換や平素の練習成果の発表のため、毎年開催されてきた「公サ連まつり」である。 前年度は小学校体育館を利用し開催したが、今年度は本来の活動の場である中央公民館で発表の機会を持った。		
成果	・「公サ連まつり」は、各サークルの普段の活動や練習の成果を発揮する場として、これまで実施されてきたものであり、会員相互の交流もその目的となっている。		
課題認識	・前年度小学校施設等を活用し開催したが、活動場所からの移動や備品等の借りに多くの時間・費用がかかったことなどから、今年度は本来の活動の場所である公民館での開催となった。		
評価委員の 所見	・生涯学習の発表の場があることは大切である。学び、学んだことを生かすことは生涯学習の基本であり、さらなる充実・発展を望む。 ・文化サークルの発表の場である。ニーズを汲み取り、早期のハード面での整備が望まれる。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標13】社会教育施設の活用 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	図書室運営事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	中央公民館図書室運営事業 ①図書の貸出、返却、発注、受入、整理、保管義務 ②図書の貸出に伴う予約、リクエスト、調査・相談業務 ・貸出者＝町内に在住または在勤の者 ・冊数＝1人6冊まで ・貸出期間＝2週間まで ※本図書室は、京都府図書館総合目録ネットワークシステム「ケイ・リブネット」と提携 【読みたい本が見つからないときは】 ・予約・リクエスト可能 ・当図書室に本がないときは他の図書館からの借用が可能 ・パソコンを利用して検索可能 【開室日と時間】 ・火曜日～金曜日…貸出時間は午前10時～午後4時45分 ・土曜日、日曜日、祝日…貸出時間は午前10時～午後4時15分 ※休室日は、毎週月曜日、毎月最終木曜日、12月27日～1月4日、その他特別整理期間 <図書室開室状況> 開室日数 284日 蔵書数 37,100冊 (一般書 23,470冊 児童書 13,630冊) 貸出者数 17,234人 貸出冊数 56,859冊		
成果	利用者のニーズに合った開館状態、管理者・利用者共に利用しやすい図書館システムの運営、情報提供を速やかに行うための資料管理、読書活動の普及・推進のための事業の実施、公民館図書室の利用サービスの運営事務ができた。		
課題認識	・京都府南部地域で小さな図書室の1つで、利用者は減少傾向にある。これは、全国的な傾向となっており、デジタル機器の普及による活字離れが主な要因と言われている。これに対し、今後どのように対応していくかが大きな課題である。 ・第四次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に沿った取組の企画・実施が求められる。		
評価委員の 所見	・京都府図書館総合目録ネットワークシステムとの提携により、図書室にない本も予約・リクエストすることにより利用できることは喜ばしいことである。 ・今後も利用者のニーズにあった事業の実施が望まれる。 ・図書館が建設されることが理想であるが、現状では公民館の改修計画の中で図書室が更に充実することを期待したい。		

	・デジタル機器の普及による活字離れへの対応は、今後の大きな課題である。 ・学校図書館との連携も模索してほしい。 ・第４次「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画」に沿い、学校図書室との連携や家庭の教育力向上も模索してほしい。
--	---

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 1 4】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。												
事務事業名	体育館管理運営事業						担当部署		生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)				
事業実績	・京都国体（昭和 63 年）でフェンシング会場となり、それ以降、各種のフェンシング大会、競技会の会場として全国的に名が知られている。 ・体育館のリニューアル・オープンに伴い、町内・町外の使用料金を変更した。 （町内料金は当面従来通り） ・施設の利用状況 （１）利用状況												
	月別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
	人数	3,523	3,829	3,660	3,210	3,602	4,076	5,526	4,782	4,341	3,091	4,101	5,028
	件数	127	124	116	116	116	121	148	121	122	126	141	331
	前年度	4,040	4,259	4,604	4,227	—	—	—	—	—	—	—	—
		171	160	184	167	—	—	—	—	—	—	—	—
							合計人数		合計件数		利用率		
							本年度		48,769		1,709		70.5%
							前年度		17,130		682		75.3%
	（２）種目別利用状況（人数と件数）												
	種目	バレーボール	フェンシング	その他	バドミントン	卓球	バスケットボール	体操	催し物	武道	エアロビクス	テニス	合計
人数	10,311	10,279	6,443	5,262	4,354	3,753	3,217	2,549	1,665	705	231	48,769	
種目	バドミントン	その他	卓球	フェンシング	バレーボール	体操	バスケットボール	武道	エアロビクス	テニス	催し物	合計	
件数	373	284	270	211	162	153	101	72	38	32	13	1,709	
成果	・前年度に実施したリニューアル工事では、大体育室に空調設備を新設。非常に厳しい高温となった平成 30 年の夏季期間中の稼働時には、施設を使用された団体等には快適な環境を提供することができた。												
課題認識	・土日はほぼ空き時間帯がない状況であるが、平日の午後 3 時～同 6 時の時間帯には空きが多いため、当該時間帯の利用確保のための方策が必要である。												
評価委員の 所見	・改修工事により様々な問題に対応できる施設となった。多額な工事費を費やしており、多くの町民に利用されるよう施策の検討が必要である。 ・指定管理の導入を見据えた体育館運営体制の整備が急務である。 ・駐車場の確保は必須である。 ・災害の発生が多くなってきており、緊急時の対応について、訓練等により習熟しておく必要があるのではないか。												

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	大山崎町天王山カップ 少年少女フェンシング大会の開催	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	平成30年度は第3回大会を開催。前年度会場であった大山崎町立大山崎中学校から、改修工事が終了した町体育館へ会場が変更となった。前年度大会以上の参加があり、大いに盛りあがった。 【大会概要】 日時＝平成30年12月23日(日) 9時～19時30分 会場＝大山崎町体育館 競技種目＝フルーレ個人戦 ※以下のカテゴリ(学年区分、男女別) 小学生1・2年 男子の部＝36人 女子の部＝19人 小学生3・4年 男子の部＝74人 女子の部＝39人 小学生5・6年 男子の部＝80人 女子の部＝43人 中学生 男子の部＝133人 女子の部＝90人 参加者合計＝514人 カテゴリ毎に1位～3位を表彰		
成果	- 改修工事が終了した町体育館を会場として、1日での開催となった。 - 年々参加者数が増え、さらに海外からの参加もあったことから、本大会の知名度は上がりつつある。		
課題認識	- 今後も参加者数が増えることが予想されるので、安心安全な大会進行のため、対策が必要と感じた。 - 当日の大会運営に関して、予定終了時刻を超過しており、審判員・補助員をしていただいた学生たちから不満の声があった。 - 参加者数の増加が想定を超えていた実情はあるが、審判員・補助員の人数については規模に対して、少なかったと感じられる。		
評価委員の 所見	- 近年フェンシングも日本人選手の国際大会での活躍を通してメジャーなスポーツになりつつあり、参加者が増加していることは全国の少年少女フェンサーにとっては嬉しいことである。今後も関係者と協力して大会を盛り上げていきたい。 - 全国大会を催すことは多くの町職員の力が必要であることから、職員の過重な負担とならないよう計画されたい。 - ホストタウン事業の一環としても位置付く。会場もリニューアルした体育館開催になるが、運営の一定のマニュアル作りは必要である。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 1 4】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	スポーツ振興事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	◇町主催事業 10月8日(日) 第57回町民体育祭 参加者=約3,000名 ◇大山崎町体育協会事業 各種大会を大山崎町体育協会へ委託し、協会事業として実施。 6月8日(金) 町民ソフトバレーボール大会(地震のため中止) 10月19日(金) ラージボール卓球ダブルス大会 参加者=21名 10月28日(日) 町民グラウンド・ゴルフ大会 参加者=142名 11月25日(日) 町民ソフトボール大会 参加者=171名 12月2日(日) 町スポーツ少年団交流大会 参加者=165名 1月20日(日) 体協新春ジョギング大会 参加者=30名 ◇京都府民総合体育大会への参加 10競技 参加者=109名 ◇町スポーツ少年団の育成 9単位団 登録者=261名		
成果	・町民体育祭をはじめ、ソフトバレーボール大会、ソフトボール大会、グラウンド・ゴルフ大会を地区対抗形式で毎年開催している。(平成 30 年度は地震の為、ソフトバレーボール大会は中止) ・体育協会本部役員をはじめ、町体育協会地区委員の大きな協力を得て、各大会に多くの選手が参加。 ・体育協会加盟団体が自ら主催する各種大会も開催し、日々の練習の成果を発揮する機会を提供している。 ・平成 28 年度から実施している「体協新春ジョギング大会」は、年の初めに健康的に体を動かせることから参加者からも好評である。 ・町民にスポーツや運動する機会を提供し、町民の健康の保持・増進や地域の交流・親睦の一助となっている。		
課題認識	・町全体に少子高齢化が進み各種大会・イベントへの参加者が緩やかではあるが減少傾向にある。 ・誰もが気軽に参加できる(楽しめる)種目、イベント等の開催を検討し、実践できるよう努力する。		

評価委員の 所 見	• 少ないスタッフで多くの大会を実施しておられる体育協会は、大山崎町スポーツ振興に大変貢献されているが、スタッフの過重な負担とならないよう考慮が必要ではないか。 • これらの事業は、大山崎町体育協会の協力を得て町民のスポーツ振興に大きな役割を果たしてきたが、少子高齢化により参加者が年々減少している。健康寿命を延ばす上でも、今後は町民のニーズにあった企画も検討していく必要があるのではないか。
----------------------	---

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	総合型地域スポーツ事業 (わくわくクラブおおやまざき)	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<わくわくクラブおおやまざきの事業> ①各種スポーツ教室 10種目教室 参加者 107名 ②春のハイキング(京都・伏見方面) 参加者 24名 ③カヌー教室(京都府京丹波町和知) 参加者 24名 ④秋のハイキング(東寺・京都鉄道博物館) 参加者 25名 ⑤クリスマスイベント(町体育館) 参加者 95名 ⑥わくわくクラブ設立12周年イベント 参加者 80名 ⑦サタデーナイト(年間12回) 参加者 604名 ⑧ソフトボール大会 参加者 70名 ○スキー・スノボ教室は雪不足のため中止 <合計> 参加者 1,029名		
成果	・町スポーツ少年団や大山崎中学校の部活動等にスポーツ教室の指導を依頼しているため、つながりが継続している部分も多くあり、とくに近年スポーツ教室をきっかけにその部活に入部するという事例も増えてきている。 ・イベントに関しては、安定した参加人数を確保できている。また参加者の多くがイベント等の開催に協力的で、非常にスムーズにイベントを進行できている。		
課題認識	・スタッフは増えたものの、今まで中心となっていた青年リーダーのスタッフの多くが社会人となり、スタッフの確保が難しい状態となっている。新たなスタッフの加入があるものの、スタッフ間の引き継ぎと人材発掘が必要になる。 ・町教育委員会と当該クラブとが連携を持ち、本事業の発展に繋げていく。		
評価委員の 所見	・町スポーツ少年団や大山崎中学校の部活動と連携してスポーツ教室が円滑に実施されていることは素晴らしい。 ・参加者が減少することなく、事業が実施できていることはスタッフの努力によるところが大きく、今後も地域と連携しながら継続して実施されたい。 ・スタッフの確保については、青年リーダー会に頼らず確保できるよう、スポーツ団体から人選する等、新たな施策が必要ではないか。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	スポーツ団体育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	町体育協会及び総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）加盟の団体に対する指導・助言を行っている。 ◇スポーツ団体(6団体) ・バレーボール連絡協議会 4チーム 73名 ・バドミントン協会 6チーム 93名 ・ゲートボール協会 1チーム 9名 ・グラウンド・ゴルフ協会 1チーム 55名 ・軟式野球連盟 10チーム 180名 ・ニュースポーツ協会 1チーム 21名 ◇総合型地域スポーツクラブ ・わくわくクラブおおやまざき 会員数 69名 ◇スポーツ少年団 9単位団 261名		
成果	・スポーツ団体については、「総合型地域スポーツクラブ」、「スポーツ少年団」を含む8団体がある。 ・府民総合体育大会市町村対抗競技への参加をはじめ、それぞれのスポーツ団体主催の事業も数多く開催されている。 ・総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）は、小学生や大人を対象とした各種スポーツ教室や、季節ごとの屋外のイベントを開催し、定員を超えるほどの人気のイベントもある。 ・スポーツ少年団は、8種目、9単位団が加盟し、これは京都府内でもトップクラスの加入率であり、小さい町ではあるが、子どものスポーツ活動は盛んである。		
課題認識	・加盟チーム数の減少傾向が見られる。加盟会員の高齢化が進みつつあり、また、少子化によるスポーツ少年団員の緩やかな減少傾向が見受けられる。 ・それぞれの団体を運営される方（代表者）や、技術指導者のさらなる資質の向上を研修会、講習会等に参加されることで求めたい。 ・町内での活動場所が、町体育館、学校体育施設、桂川河川敷公園等で、ほぼ飽和状態となっている。		
評価委員の 所見	・多くの団体が育成されている。スポーツ少年団も加入率が高い。健全なスポーツの在り方のためにも指導者・代表者の研修が行われると良い。 ・団体のモチベーションを下げないよう学校体育施設利用にかかる一定のルール作成が求められる。 ・スポーツ場所の確保が課題となるのはある意味、喜ばしい。但し、利用方法等に工夫ができないか。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 1 4】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	スポーツ推進委員育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	スポーツ基本法に基づき委員を委嘱している。 スポーツ推進委員は、町スポーツ推進委員協議会を構成し、町体育協会事業への指導・助言や総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）への指導・助言を行っている。 また、近畿・府・乙訓のスポーツ推進委員研修会等への積極的な参加により個々の指導力の向上を図っている。		
成果	スポーツ推進委員が大山崎町のスポーツ振興事業の企画・運営に携わることにより、町体育協会等が開催する各種大会、イベントがスムーズに運営できている。 各種スポーツイベント等の運営に携わることで、地域の交流・親睦の一助となっている。		
課題認識	前年度比 2 名減の 8 名体制となったものの、委員の年齢層は偏りが見られるため、20 代～30 代の委員を登用し若返りを図る必要がある。		
評価委員の 所見	・町民のスポーツ振興に、スポーツ推進委員の役割は重要である。スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブへの助言のためにも、優れた人材の確保が望まれる。 ・「スポーツを愛する人が多くいる大山崎町」のイメージがある。推進員の補充の手立て、道筋を一定ルール化できないか。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 1 4】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	各種スポーツ施設開放事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<施設別の利用件数／利用者数> ・桂川河川敷公園の開放（野球場、テニスコート、陸上競技場） 利用件数 98 件／利用者数 6,498 名 （前年度 131 件／6,026 名） ・岩崎運動広場の開放 利用件数 137 件／利用者数 751 名 （前年度 133 件／772 名） ・町内小中学校体育施設の開放 利用件数 959 件／利用者数 22,790 名 （前年度 1,029 件／26,355 名）		
成果	桂川河川敷公園、岩崎運動広場、特に小中学校体育施設については、町民のスポーツ活動の中心的な役割を果たしている。		
課題認識	・岩崎運動広場は年々コートの状態が悪化しており、応急措置としてのコートの苔除去清掃を実施するも、施設そのものの改善を要する状態となっている。 ・老朽化にともなう措置として、平成 30 年 8 月からダブルス面を使用中止としている。		
評価委員の 所見	・町体育館、大山崎小学校のナイター照明など、改修工事が進み、利用しやすい施設となったことは喜ばしいことである。 ・スポーツ意欲が高い町民のため、岩崎運動広場の改修工事についても、早急に実施されることを望む。 ・体育館に続き、公民館と改修等が必要な事案があり、学校教育でも給食施設等が検討されている。組織体制として教育関係施設の担当係が独立して担う必要性を感じる。 ・安全なスポーツ振興に施設整備は欠かせない。今後も予算確保・人員確保を望む。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	フェンシング競技用具更新事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	本町は、「フェンシングのまち大山崎」として、フェンシング競技の普及ならびに同競技を通じた地域間交流の促進、地域の活性化を進めている。 そうした中、町体育館で保有するフェンシング競技用具類は、老朽・劣化が激しく、国際基準に合致しないものであることから、競技団体、利用団体から更新の要望が寄せられていた。 これらをふまえ、より一層フェンシング競技環境の向上を図ることを目的に、スポーツ振興くじ助成金を活用して、町体育館にフェンシング用具3セットを新たに購入し、設置した。 <平成30年度に新たに購入した用具> ①審判器フルセット×3セット ②リールセット ×3セット ③4面表示灯 ×3セット ④アルミピスト ×3セット 総事業費＝7,500,600円 財源内訳＝(スポーツ振興くじ助成金) 5,816,000円 (府補助金) 842,000円 (一般財源) 842,600円		
成果	今後は、本町主催の「大山崎町天王山カップ少年少女フェンシング大会」をはじめ、町体育館でのさまざまなフェンシング競技場面で有意義な活用を図ることができただけでなく、東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けて、ホストタウン相手国であるスイスのフェンシングナショナルチームの事前合宿等の受入れも目指している中で、事前合宿実施の際には、更新した器具の活用が期待できる。 なお、財源については独立行政法人日本スポーツ振興センターによる地方公共団体スポーツ活動助成制度を申請し、限度額に近い助成金を得ることができた。		
課題認識	町体育館で保有するフェンシング競技用具類は、老朽・劣化が激しく、各種フェンシング競技会、大会等を実施するうえで必要となるもので、今後も順次計画的に更新を行っていく必要がある。 事業費が高額となるため、財源等の措置として、引き続きスポーツ振興くじ助成金等の活用を図る必要がある。		
評価委員の 見所	・近年、国際大会などで活躍が目立ってきているフェンシング競技は、大山崎町にとって重要である。京都国体(昭和63年度)以来フェンシング競技のメジャー化は著しく、地元からも有力な選手を輩出しており、今後も活躍が期待される。そのような状況を鑑み、競技に必要な用具の更新は必然であり、今後も補助金を活用し、積極的に更新を図りたい。 ・用具の新調で「フェンシングの町：大山崎」を誇れる。財源の確保にも努力された。今後も、オリンピック・パラリンピック、ホストタウンが契機となり、用具の新調が計画的にされるよう期待する。 ・町の財源支出もあるので、その活用が見える形にしてほしい。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 15】文化活動の促進と文化財の保護と活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	歴史資料館運営事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<歴史資料館の運営、活動> 年間入館者総数(開館日数 288日) 災害等による休館日 7日 8,139名 図録等販売実績 484,480円		
成果	- 平成 30 年は、行基生誕 1350 年にあたり、山崎院を建立した行基を喚起する展示を試みた。行基と関わりのある大野寺(堺市)、泉橋寺(木津川市)、宝積寺(大山崎町)などに関わる資料を展示した。展示内容については、企画展示図録「行基と山崎院」でまとめた。 - 歴史街道推進協議会「西国街道部会」などを通じて、西国街道沿道の自治体立の博物館施設との連携を実施することができた。30 年度リレートーク「名所図会でたどる西国街道」を吹田市立千里丘市民センターで実施した。それを通じて、各々の施設や活動を PR することができ、阪神間の人々に当館を周知させていく絶好の機会となった。 - 地元小学校における地域学習においても資料館が積極的に使用された。		
課題認識	- 入館者数、図録等の販売数ともに前年度より増加したが、この傾向を維持していく必要がある。 - 団体入館者に対しては、じっくりと時間をかけて見学していただく工夫が必要である。その上で HP に過去の企画展示図録を紹介するなどにより関心を喚起し、図録等の販売につなげたい。		
評価委員の 所見	- 歴史資料館を通じて自治体立の博物館施設等と連携し、グローバルな視点で事業が実施されていることは非常に評価できる。今後もこの取組を通じて大山崎の歴史を広く発信されたい。 - 地元小学校における地域学習に資料館が使用されることは有意義なことであり、今後も地元小学生の学習意欲向上に貢献されたい。 - HP を活用する等、入館者増、図録販売への努力を評価する。 - 町が歴史資料館を運営していることは誇れる。町民の各年代層へのアプローチを望む。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	各種企画展等事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<各種企画展の開催・調査活動> 5月2日(水)～27日(日) 「近現代 大山崎の観光と鉄道建設」(小企画展) 参加者 901名 8月7日(火)～19日(日) 第20回「平和のいしずえ」展(小企画展) 参加者 229名 10月20日(土)～11月25日(日) 「行基と山崎院」(第26回企画展) 参加者 1,589名 平成31年3月5日(火)～21日(木・祝) 「描かれた山崎合戦」(小企画展) 参加者 320名 <その他> 町内文化財の修理、燻蒸、館蔵古文書の目録作成		
成果	・毎年5月は蘭花譜の展示を行うが、平成30年は2月に実施したこともあったため、今回は大山崎の観光と鉄道建設について小企画展を実施した。 ・企画展において、多くの入館者を得ることができた。 ・生涯学習ボランティアグループ(大山崎ふるさとガイドの会)に、企画展に関する学習会を実施し、新しい資料に関する内容ができるようにした。新たに修得された知識等を活用し、説明に幅ができた。 ・重要文化財「大阪府大野寺跡(土塔)出土遺物」における文字瓦を、山崎廃寺出土文字瓦とあわせて展示した。また、宝積寺所蔵行基菩薩坐像、丹波国分寺所蔵行基菩薩坐像、橋柱寺縁起などを取り上げ、後世における行基信仰との関わりを取り上げた。宝積寺所蔵の坐像は、展示にかかる調査において、永仁4年(1296)銘、および「行基菩薩」の墨書が確認された。時期が確定できる中世前期の彫刻と位置づけられ、企画展開催中、京都府暫定登録文化財に登録された。 ・町内における京都府暫定登録文化財、および寄贈いただいた文書史料の目録を作成した。 ・出土遺物等によって、8世紀における行基をめぐる人的交流が確認でき、堺市の大野寺との関わりが展示できた。 ・宝積寺所蔵の行基菩薩坐像が暫定登録文化財に登録されたため、今後行基開基を改めて喚起できる材料となった。行基をめぐる大和、河内、和泉の寺院の交流の契機になると思われる。		

	・小企画展では、地元の近世・近代の版画などを取り上げ、山崎合戦に対する関心を高めた。平和のいしずえ展でも、町民から取り寄せた資料を取り扱い、近現代資料の重要性を訴えた。
課 題 認 識	・資料借用では堺市博物館に、また現地見学会で堺市文化観光局の協力を得た。昨年に引き続き、大阪府側の自治体との交流の重要性を実感した。 ・当該事業の展開で、大山崎町の歴史についての学習や体験活動を通して、大山崎町の歴史や文化の理解を更に広げることが必要である。
評価委員の 所 見	・毎年、大山崎に関わる様々なテーマをピックアップし数度の企画展を実施されていることは、素晴らしい。今後も同様に企画展を計画実施し、紹介を続けてほしい。 ・類似点のある堺市やその他の大阪府側の自治体との交流を通じ、大山崎町の歴史や文化の理解をさらに深められ、広く町民に紹介されたい。 ・企画展に集客が多いのは工夫をされたからだと想像する。 ・「ふるさとガイドの会」の活用も学習会等で得た新知識を生かした案内ができるようにされていて、他地域の方からも評価されている。企画展だけではなく、常設展も希望者に分かりやすい説明付き（対話式）だとより入館者が楽しめる。 ・埋蔵文化財を資料として展示されると歴史に厚みが出る。また、精力的に新資料の発掘に尽力されていることにも敬意を表する。そのお陰で歴史上の事実が明らかになり、京都府の暫定登録文化財に指定されたのは素晴らしい。

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	講座・講演会事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<各種啓発事業の開催> ◇講座・講演会等 5月26日(土) 大山崎の鉄道遺跡を歩く(小企画展 現地見学会) 参加者 計15名 9月1日(土) 「山崎橋・山崎院と天平の社会～行基の造営事業と淀川流域」 参加者 計105名 (連続講演会①) 10月6日(土) 幕末維新期の西国街道と大山崎を歩く(歴史街道ウォーキング) 参加者 計15名 10月7日(日) 「仏像のみかた・行基像の魅力」(連続講演会②) 参加者 計102名 10月27日(土) 「行基開基由緒と中世寺院一宝積寺と西観音寺」(連続講演会③) 参加者 計99名 11月3日(土) 「土塔と山崎院の文字瓦からみた行基の活動」(歴史講演会①) 参加者 計113名 11月18日(日) 「行基とカミ・ホトケ」(歴史講演会②) 参加者 計120名 11月23日(金・祝) 「行基の足跡を訪ねて～大山崎から堺・大野寺跡へ」 参加者 計16名 (企画展 現地見学会) 12月1日(土) 「明智光秀と織田信長」(大山崎ふるさとガイドの会講演会) 参加者 計158名 12月8日(土) 「名所図会でたどる西国街道『都名所図会』と乙訓・大山崎」 参加者 計140名 (西国街道リレートーク) (平成31年) 3月10日(日) 『太閤記』から山崎合戦をよむ(古文書講座)		

	参加者 計51名 3月16日(土) 「足利義昭政権論」(小企画展 歴史講演会①) 参加者 計62名 3月21日(木・祝) 「織田から豊臣へ～京都をめぐる1580年代の政治史～」 参加者 計85名 (小企画展 歴史講演会②) ◇普及啓発事業(文化を未来に伝える次世代育み事業) 7月17日(火) 「瓦粘土コースターをつくろう!!」(子ども歴史クラブ教室) 参加者 計21名 7月26日(木)・27日(金) 「瓦をつくって漢字を学ぼう!」(夏休み子ども歴史教室) 参加者 計10名 (平成31年)3月23日(土)～4月7日(日) 第18回 地域学習展示交流会 参加者 計412名 (内容補足:カルタ作り等) ◇ふるさと案内人養成講座(第9期)の実施 6月26日(火)～12月18日(火) 30講座 参加者 39名 修了者 25名
成 果	・企画展で学んだ内容を、現地の史跡や文化財とつなげて理解する実践を行なった。学習機会の提供とともに、大阪府自治体との関わりを考える視角を提供した。これによって幅広い視野から大山崎町に対する愛着心が育まれた。 ・他市町村の活動や研究成果を踏まえることで、大山崎町の歴史や文化をより客観的に見据えることができるようになった。さらに西国街道を扱うことで、広域連携を行うことにつながった。 ・小中学生対象の各事業の実施により、幅広い年代層に対して、地域の歴史・文化を学んでもらう場となっている。特に、毎年相違するテーマを選びつつ、郷土の資料や文学資料を学習することで、地元大山崎町への愛着心が育まれることにつながっている。 ・小中学生がボランティアグループと接するなかで、幅広い年代の方々との交流が生まれている。 ・子どもたちに対する有効な指導ができるよう、ガイドへの講習会を実施した。 ・ふるさと案内人養成講座を実施することで、大山崎町における生涯学習の展開と、大山崎ふるさとガイドのさらなる発展に寄与した。 ・ボランティアグループにおいても、小中学生の習熟度に応じた対応・取組が可能となり、指導者育成につながっている。講習会などを順次実施していくことで、これを再生産し、補強している。

	・文化財の調査や、その保管する環境調査を行うことによって、新しく確認された地元資料を保存し、これを後代に伝え、展示・公開をさらに進めることができる。また、企画展・小企画展にも活用できる。
課 題 認 識	・大山崎は淀川や西国街道で他地域とつながっており、共通のテーマとなる歴史や文化で結ばれている場合が多い。こうした側面をさらに掘り起こし、他自治体立の博物館施設とさらなる広域連携を進めることが課題である。 ・小中学生の関心を高めるテーマを、さらに追求していく必要がある。これには、子どもたちの習熟度に応じた説明や理解の促進を実施することが肝要である。 ・寄贈を受けた古文書等を調査し、その目録を作成することが必要である。それを契機に公開・活用していくことにつながる。
評 価 委 員 の 所 見	・各種啓発事業を開催することにより、大山崎町の歴史や文化をより深く説明し紹介していくことは意義のあることである。今後は他の地域との広域連携も視野にさらなる啓発事業が実施されることを期待する。 ・大人、子ども向けのたくさんの企画が行われており、結果、ふるさと大山崎への愛着(誇り)が育まれたことは評価できる。観光との連携や小中学校の歴史学習・総合的な学習の時間として教育課程に組み込む、出前授業等さらなる充実が望まれる。 ・普及啓発事業も(地域学習展示交流会等)、地域総掛かりで子どもを育てる観点からも応援したい。 ・「〇〇コース」のような、所要時間の目安と共に町内の歴史を巡るガイドブックを(学年発達段階に合わせ)何コースか作成し、小中学校等に配布し、学習で活用してもらうことを検討できないか。 ・「ふるさと案内人養成講座」(9期)が3年に一度の開講と聞いたが、継続されているのが素晴らしい。ふるさとガイドの補充にも繋がっているのもすごい。 ・平成2年のNHKの大河ドラマ「麒麟が来る」関係の企画展示は難しいか。

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	有形文化財の保護	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	・妙喜庵 茶室(待庵 国宝)・書院(重要文化財)の修理 大阪府北部地震被災にかかる待庵・書院の外壁、内壁、屋根の修理 11月1日(木)～平成31年3月31日(日) 国庫補助事業 ・聴竹居(重要文化財)の修理 大阪府北部地震被災にかかる聴竹居本屋・閑室の外壁、屋根の修理 9月3日(月)～平成31年3月31日(日) 国庫補助事業 ・京都府暫定登録文化財小倉神社 本殿屋根及び屋内の補修・改修 (2期 平成30年度) 4月1日(土)～10月31日(水)		
成果	・国、府と連携し、大阪府北部地震、および台風21号によって被災した建造物を修理した。国庫補助を基盤に、府、町が随伴補助金を計上した。		
課題認識	・台風や地震による国宝、重要文化財の被災について、情報の共有化と、所有者との密な連絡が求められる。 ・未指定文化財に対する修理や保護について、対応が求められている。		
評価委員の 所見	・近年、地震や台風の来襲が頻発しており、歴史的建造物もその被害を免れない。自然現象による災害はいつ起こるか分からないが、時間をおいて被害が大きくならぬよう早急な復旧を期待する。 ・復旧費用は高額に及ぶものと思料され、国・府の補助金を受けられるよう関係者と密に協議されるよう期待する。 ・未指定ながら保存の価値があるものへの対応は確かに難しいと思われる。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	文化財調査事業（原因者）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	・長岡京跡右京第1172次調査 調査対象面積 63.4㎡ 6月1日（金）～6月26日（火） ・長岡京跡右京第1175次調査 調査対象面積 77㎡ 7月3日（火）～8月7日（火） ・第78次遺跡確認調査 調査対象面積 250.7㎡ 7月11日（火）～8月8日（水） ・長岡京跡右京第1188次調査 調査対象面積 241.2㎡ 平成31年1月21日（月）～2月22日（金） ・『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第56集を刊行		
成果	・長岡京跡右京第1172次調査は、共同住宅建設に伴って実施し、中世の遺構・遺物を検出した。 ・長岡京跡右京第1175次調査は、宅地造成に伴って実施し、鎌倉時代の遺構・遺物を検出した。 ・第78次遺跡確認調査では、宅地造成に伴って実施し、湿地の堆積層を検出した。 ・長岡京跡右京第1188次調査は、共同住宅建設に伴って実施し、鎌倉時代の遺構・遺物、縄文時代の遺物包含層を検出した。 ・『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第56集は、長岡京跡第1172次調査、長岡京跡第1175次調査、第78次遺跡確認調査の各成果を報告した。		
課題認識	・開発に伴う発掘調査において、遺構・遺物を適切に記録し、遺跡の実態を町の歴史に反映させることが重要である。		

評価委員の 所見	開発に伴う発掘調査は、宅地開発等における不定期で予定の立たない事業であるが、貴重な遺構の調査であり、記録、保存に万全を期していただきたい。それを開発に生かすことができることもある。
---------------------	--

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 15】文化活動の促進と文化財の保護と活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	文化財調査事業（国庫補助）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	・山崎津跡第 19 次調査（山崎津跡の範囲確認調査） 調査対象面積 100.6 ㎡ 9 月 28 日（金） ・山崎津跡第 20 次調査（山崎津跡の範囲確認調査） 調査対象面積 253 ㎡ 平成 31 年 3 月 18 日（日）～3 月 20 日（火） ・天王山赤色立体地図作成 ・『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第 54 集、第 55 集を刊行		
成果	・山崎津跡第 19 次調査、山崎津跡第 20 次調査では、山崎津の範囲確認調査マクセル工場敷地内において、遺構面の深さについて調査した。 ・天王山赤色立体地図作成では、航空レーザ測量成果を基に、赤色立体地図を作成し、天王山の全容が把握できた。 ・『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第 54 集では、鳥居前古墳の発掘調査を報告した。 ・『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第 55 集では、詳細分布調査を報告した。		
課題認識	・国庫補助事業の各事業において、遺跡の範囲を的確に把握し、保存等の取組に活かすことが重要である。		
評価委員の 所見	・近年の測量技術の進歩に伴い、天王山赤色立体地図が作成され、天王山の全容が把握できたことは大きな成果である。 ・今後も国庫補助を受けながら、埋蔵文化財発掘調査を継続されたい。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標 15】文化活動の促進と文化財の保護と活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	史跡整備事業（国庫補助）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	・保存整備工事 4月1日（土）～平成31年3月31日（日） ・第75次遺跡確認調査整理作業 4月1日（土）～平成31年3月31日（日） ・第1回史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会 平成31年2月5日（月）		
成果	・史跡整備事業では、保存整備工事を行った。 ・第75次遺跡確認調査整理作業では、平成29年度に実施した調査の遺物および遺構の整理作業を実施した。 ・史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会では、平成31年度以降に施工する実施設計等について、協議した。		
課題認識	・史跡の意義を活かすための整備を進め、今後の活用に向けた具体的な取組を計画することが課題である。		
評価委員の 所見	・史跡指定地は後世に伝える貴重な史跡であり、史跡整備委員会等で十分協議し、どのように歴史に忠実に整備するのか十分な検討を行われたい。 ・平成30年度以降の実施設計等の協議が行われ、整備の取りかかりができた。今後の整備の見通しが示されることを希望する。		

平成 30 年度 指導の重点 における目標	【重点目標１５】文化活動の促進と文化財の保護と活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	史跡用地買上事業（国庫補助）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	・史跡乙訓古墳群鳥居前古墳買上事業（直接買上げ） 対象地：円明寺小字鳥居前 18-21,18-22,18-23,18-24		
成果	・鳥居前古墳保存のため、史跡指定地の土地の一部を買上げた。		
課題認識	・史跡乙訓古墳群 鳥居前古墳の保存のため、京都府関係部局とも連携し取り組む必要がある。公有地化を進め、今後の整備内容について検討していくことが課題となる。		
評価委員の 所見	・財政的負担が大きなものと思われるため、京都府関係部局と協議し、国庫補助を十分活用していただきたい。 ・30 年度に「一部買い上げ」とはさらに買い上げが必要となるということである。町民へ十分な説明をし、公有地として歴史的な保存・活用を検討されたい。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	埋蔵文化財等普及啓発事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	・大山崎中学校職場体験学習(2年生4名) 11月1日(木)・2日(金) ・ミニシンポジウム「古代山崎の架橋と造寺～行基の前史、道昭の事蹟を探る～」を開催しました。 11月25日(日) 参加者：一般住民 約65名 ・文化のつどい 11月4日(日) 調査成果をポスター展示 ・スライドでみるおとくにの発掘 平成31年3月2日(土) 参加者 一般住民 約100名		
成果	・町民の中でも歴史に興味を持つ方は多いことから、発掘調査において成果があった場合、町のPRを含めて報告することは効果的であると考えます。 ・中学生による職場体験学習では、埋蔵文化財の整理作業体験を通して望ましい社会性や職業観を身に付けてもらうには良い機会である。		
課題認識	・史跡大山崎瓦窯跡や鳥居前古墳など、文化遺産の広報普及とそれを活かしたまちづくり構想が求められている。		
評価委員の 所見	・職場体験の中で、埋蔵文化財の整理作業を中学生自身が体験することは、さらに大山崎の歴史に興味を持つことになり、非常に有意義である。 ・大山崎瓦窯跡や鳥居前古墳の発掘調査の成果について、史跡整備事業との関連も持たせ、より多くの町民が認識できるよう、広報に工夫をされたい。 ・小中学校の社会科の時間に発掘担当者による出前授業を検討されては如何か。 ・発掘等が繁雑な中、啓発・普及については歴史資料館との連携が必要ではないか。 ・「保存と活用」の観点で啓発をも考えた収蔵庫建設を望む。		

平成30年度 指導の重点 における目標	【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	文化事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	・乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会（乙訓文化芸術祭） 6月10日（日） 主催 乙訓文化芸術祭実行委員会・乙訓地方中学校校長会 会場 長岡京記念文化会館 ・民俗芸能鑑賞会「壬生六斎念仏踊り」 解説・実演 10月28日（日） 主催 大山崎町教育委員会・大山崎町文化協会 会場 大山崎町体育館		
成果	・乙訓文化芸術祭は、大山崎町・長岡京市・向日市内の中学校8校の吹奏楽部が集い、日頃の練習の成果を発揮する良い機会となった。 当該事業は毎年好評で、観客数は約1,200名。こうした大勢の観客を目の前にして演奏する生徒たちは、緊張や失敗、仲間とやり遂げた達成感や充実感等を体感することとなった。よって、「大舞台で、どれだけ自身のパフォーマンスが発揮できるか。」を試すには、絶好の機会であった。 ・民俗芸能鑑賞会では、約200名の住民が身近な場所で、普段触れることの無い京都市登録無形民俗文化財を鑑賞した。 解説や公演により民俗文化財の理解が深められ、伝承してきた歴史の重みが伝えられた。		
課題認識	・多面的な角度から、各種のニーズに応えることが望まれている。		
評価委員の 所見	・民俗芸能鑑賞会は、住民が身近な場所で文化芸術に触れられる良い機会となっている。今後も住民の文化芸術に接する機会として継続されたい。 ・民俗芸能鑑賞会の広報は乙訓全域にされているのか。乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会のように二市一町の文化協会の相互乗り入れを構想できないか。		